

シ同二時二十分參加者全員草鞋履ニテ影山塾長引卒ノ下ニ途步行  
進ニテ

代々木八幡神社

明治神宮

宮城

靖國神社

等ニ順次祝詞、請願文、念誦奏上等祈願參拜ヲ爲シ午前八時靖國  
神社前ニ於テ無事解散セリ

(4) 忠靈神葬請願署名郵送

本年七月ヨリ全國的ニ展開セル請願署名運動ハ十一月二日現在ニ  
テ約四、九〇〇餘名ノ署名者ヲ得ルニ至リタルヲ以テ塾ニ於テ之  
レガ整理取纏メヲ爲シ前記ノ通り十一月三日祈願參拜ヲ行ヒタル  
後同日午后三時影山塾長ヲ請願代表ト爲シ影山塾長ノ謹書セル請  
願文ト共ニ同日午後三時内大臣府宛ニ郵送請願ヲ爲セリ

2 新國學協會ひむがし歌の會狀況

九月二十四日上野公園内韻松亭ニ於テ影山正治、淺野晃ヲ講師トシテ會員約四十名參集ノ下ニひむがし歌の會ヲ開催シ更ニ十月二十二日上野公園内韻松亭ニ於テひむがし歌の會ヲ兼ネ

明治維新烈士慰靈祭並

維新烈士遺墨展覽會

ヲ開催シ

影山正治

三浦義一

淺野 晃

藤田徳太郎

白井為雄

藤原 仁

大賀知周

鬼山 休

等計九十二名參集慰靈祭ヲ執行後記念講話トシテ藤田ヨリ伴林光平ノ恩想信念ニ就テ淺野晃ヨリ渡邊重石丸ノ事蹟ニ就テノ講話アリ終ツテ追悼歌會ヲ爲シ無事散會セリ

### 3 鍊成行軍

九月十九日影山塾長引卒ノ下全塾員二十名參加、奥多摩御嶽山ニ向ケ途步行軍ヲ行ヒ塾員ノ鍊成ヲ爲シ無事歸塾セリ

影山塾長入隊關係

影山正治ノ北支甲第一四〇九部隊入營ノ決定通知ニ基キ十一月八日午後五時ヨリ塾内ニ於テ入營壯行會ヲ

三浦義一

小林順一郎

松永 材

吉田益三

白井爲雄

鈴木善一

河上利治

星井眞澄

米持格夫

藤田徳太郎

淺野 晃

其他塾關係者等約八十餘名出席ノ下ニ執行藤原仁ヲ齋主トシテ神前報告祭ヲ執行式後塾監長谷川幸男全塾員ヲ代表シテ挨拶ヲ爲シ次テ入營者影山塾長ノ挨拶アリ終ツテ小宴ニ入り歡談ノ裡ニ無事解散セリ

翌十一月九日長谷川、森山、東山等ヲ付添ヘトシテ影山塾長ハ福岡縣下洲崎グラウンド集合地ニ參集無事入隊シ同月二十日現地ニ向ケ出發セリ

(内)愛國社(岩出愛之助)

本團體ハ表裏共社長岩出愛之助ノ直轄統率下ニ在リ地方同人松木良勝ノ主宰スル大東亞青年同盟ヲ背後ヨリ牛耳リ更ニ松木良勝ヲ社長ニ旬刊新聞ヲ經營シ輿論喚起ノ機關トナシ且ツ目標タル共產主義擊滅ノ爲メ井田磐楠ヲ中心ニ國際反共聯盟ヲ結成シ何レモ國體擁護ヲ旗印トシテ其ノ運動形態ハ言論文書戰ニ其ノ重點ヲ置キ來タリ曩ニ大政翼贊會發足當時既ニ否定的主張ヲナシタルモ其ノ後數度ノ改組ヲ見ルヤ漸次表面的反對運動ハ消極化セルモ内面的ニハ依然トシテ翼贊會無用論ヲ堅持シ居リ更ニ大東亞戰爭勃發後急速ニ進展スル現行統制經濟ニ關シテハ其ノ運營反國體的ニシテ中階級ヲ崩壞シムル共產主義、  
一日ト濃厚ニナリツツアリトノ推斷ヲ下シ之等反政府的態度ハ機關紙愛國新聞(旬刊)愛國評論(月刊)反共情報(月刊)等ヲ利用シテ巧ニ其ノ主張ヲ掲ゲ文書戰ヲ持續シ時ニ發禁乃至注意處分ヲ受フルコト一切ナラズ次イテ本年八月大日本興實壯年團ノ改組ヲ見ルヤ其ノ人的構成ニ於テ階級鬪爭論者在リトノ見解ヲ下ニ絶對反對的態度ヲ表明スル

一方之等主張ヲ大衆運動ニ移行スベク全國的猛運動ヲ展開スルコトニ決  
定斯クシテ九月二十三日東都神田共立講堂ノ「聖旨奉戴國民憤激大演  
說會」開催ヲ皮切りニ十月末日迄ノ間埼玉、千葉、神奈川、兵衛、大  
阪ノ各府縣下主要都市ヲ遊說シ地方人心ノ啓蒙ニ資スルト同時ニ現政  
府ノ自省勇斷ヲ希求シ來タリ此ノ間辯士ノ中止乃至注意ヲ受ルコト  
數回ニ及ベリ如上之等持論ハ本團體ガ常ニ堅持スル處ニシテ政府施政  
ニ關シテハ常ニ監視的態度ヲ持シ居リ同人中ニハ岩田ヲ初メトシテ佐  
郷屋留雄、松木良勝、野口進、大澤米吉、松井治雄等嘗テノ要路顯官  
ヲ襲撃シタル前科者ヲ擁スルヲ以テ其ノ動向ニ就テハ嚴重注意警戒ノ  
要アル處ナリ

(七) 鶴 鳴 壯、「聖戰明徵國民運動總本部」(増刊一用)

東條內閣ニ對シテハ好意的ニシテ其ノ主張タル擊ソ反共運動ハ我對ソ  
外交方針ニ依リ制肘ヲ享ケ專ラ其ノ銖先ヲ反共ニ集中支那事變處理ニ  
向ケ更生國民政府ニ對シ反共政策ノ實行ヲ要望シ機關紙鶴鳴報(月刊)

ヲ以テ修正三民主義、國民黨、反共和平青天白日旗等ノ即時揚棄東亞  
聯盟運動ノ放擲ヲ以テ汪政權ノ自省勇斷ヲ希求シ更ニ之等指導力ヲ政  
府ニ迫リツツアリタルガ本年七月内閣ノ更迭ヲ見ルヤ東條内閣ノ退陣  
ハ眞ニ政治ノ行詰リニ非ズシテ且諸公ノ策謀ニ外ナラズト同情的態  
度ヲ示シ戦局困難ノ際内閣ノ更迭ハ其ノ度ホス影響極メテ甚大ニシテ  
沙ゴトモ東條内閣ガ戦争指導ニ弱スル自信ヲ喪失セラルモノデアルトノ  
印象ヲ敵側並ニ中立國筋ヲ與ヘ佐ツテ敵ノ驕悍ナル必勝戰意ヲ益々強  
化セシメタルハ疑ヒナキ事實ナリトノ推斷ヲ下シ八月二十日ハ機  
機關紙鶴鳴報第九二號ノ主張ニ於テ

内閣更迭を期に重臣の公に徴す

ト題シ内閣更迭ニ關シ重臣ガ對閣議ノ建議地加ルガ如キ建議ヲ爲  
起サシムル虞アル筆致ヲ以テ掲載即日發禁處分ニ附セラレタリ  
九月ニ入ルヤ此等反重臣的態度ハ機關紙ヲ通ジテ其ノ主張ヲ掲グ文書  
戰ヲ持續スル一方國內運動ノ甚盛タラシムル目的ニテ代表摺建甫ノ主  
唱ニ成ル聖戰明徵國民運動ノ展開ヲ活潑ナラシメ以テ國內維新ノ線ニ

強力併行セシムベク幹部寄々協議ノ結果聖戰明敏國民運動總本部主催  
「尊皇攘夷決戰要望大會」ノ開催並ニ地方遊説ノ日程辯士其他ヲ決定  
シ九月十七日日比谷公會堂ノ大會ヲ皮切リニ同年十一月九日ニ至ルノ間  
新潟、千葉、神奈川、長崎、佐賀、熊本ノ各縣下主要都市ヲ遊説シ決  
戰ノ重大意義ハ内外一切ノ禍根斷滅ニ向ケラルベキ事ヲ強調シ來タ  
リ

現内閣ノ施政ニ關シテハ監視的態度ヲ持シ居ルモ同人中摺建富士夫、  
山口政光、小林秀男等ハ本年十月元勳皇まことむすび關係者中村武元ア  
シヤ青年社關係者飯島與志雄、七、五事件關係者谷川仁、茂呂宣ニ  
ト尊攘同志會ノ結成ニ奔走シ現ニ世話人或ハ會員トシテ活躍シテ其ノ  
舉措動向ニ就テハ嚴重警戒ノ要アル處ナリ

(八) 元大日本赤誠會 (橋本欣五郎)

サイパン失陥後言論ノ暢達ニヨリ或ハ強カナル國民運動ニヨリテ國  
民ノ士氣ヲ昂揚セントスル客觀的情勢ニ利戦セラレタル本國體ハ所謂

第二ノ橋本宣言トモ云フベキ「救國々民体當リ運動宣言」ヲ企畫長期ニ亘ル運動ノ沈滞ヲ破リ其ノ下部組織ニ指令シテ漸ク活潑ナル運動ノ展開ニ移行セントシタルガ偶々會長橋本欣五郎ノ大日本翼贊壯年團副團長兼中央本部長就任次評議員小川喜一翼壯總務ニ牛込焔々塾長來間恭本部八絃塾長雨谷菊夫ハ夫々翼壯理事ニ就任シ赤誠會中樞勢力ヲ擧ゲテ翼贊壯年團ニ結集シ九月四日本部ニ於テ本會ノ解散式ヲ舉行シ九月十一日解散手續キヲ了シタリ

其ノ後本部員古澤元、大橋三郎等相次テ翼壯本部ニ入ルニ及ビ本會ノ運動ハ必然的ニ翼壯内ニ展開スルニ至レリ

尙本部事務所ハ橋本研究所トシテ存置シ機關紙「太陽大日本」ハソノ儘研究所ノ機關紙ニ轉用繼承ト決定ヲ見タリ然レ共未ダ研究所陣容ノ整備ナク機關紙モ發行スルニ至ラザル狀況ニシテ兩者ノ活用ハ他日ニ利用セントスル模様ニシテ翼壯ノ運営ト脱ミ合セ動向注意中ナリ  
下部組織ニシテ公事（思想）結社タル目黒必誼塾外十八ノ都下各塾ニ在リテハ九月八日ヨリ十一月八日迄ノ間ニ本部ノ解散ニ伴ヒ解散手續



了シタリ尙本部ノ解散式當日橋本ヨリ會員ハ拳ゲテ翼壯ニ入團スル  
後翼壯セルガ其ノ後橋本ハ都下議員中ヨリ翼壯本部員ヲ採用セザル  
針ヲ執リ舊會員ハ帝都團ヘノ入團ヲ要望セリ然レ共現帝都團ノ陣容ハ之  
等會員ト相容レザル鬭爭經歷ト性格ト有スル爲ト實現性薄ク爲メニ舊  
會員中ニ在リテハ橋本ノ口添ヲ要望シ入團ノ機ヲ待ツモノ或ハ翼壯入り  
ヲ斷念シテ赤誠會ノ傳統ヲ承繼シ橋本研究ノ名ニ於テ研究團體トシ  
テ舊勢力ヲ存續シ橋本ノ翼壯離退ヲ豫想シ赤誠會再組織ヲ念慮シ之ニ  
對處セントスル

舊大日本赤誠會神田皇民塾 大 丸 常 松

舊大日本赤誠會荒川八紘塾 山 口 三 藏

舊大日本赤誠會板橋珠成塾 日 高 貞 太 郎

等アルモ何レモ直接關係ニ橋本欣五郎トノ關係ヲ持續スルモノ又一部  
ニハ橋本ノ翼壯入りヲ快シトセズ運動者トシテ無節操ナリト論難スル  
モノアルノ外昭和十七年七月大日本赤誠會ノ組織ヲ支部制度ヨリ塾組  
織ニ改變セルニ際シ本會ヨリ離脱シタル元京橋支部員約三十名ハ今牧

嘉雄ヲ中心ニ元芝支部員八名ハ元支部長高瀬猛夫ヲ中心ニ本部ノ解散ヲ好機トシテ夫々新結社ヲ組織スベク企圖シテ舊赤誠會關係ヨリ離脱セントスル動向等相當複雑ナル助キヲ示シツツアリ

(九) 大日本皇道會 (赤尾 敏)

會長赤尾敏ハ東條內閣當時相當及政府的傾向ヲ示シ居リタルモ小磯內閣トナリテ以來稍其ノ態度ヲ好シシメ大日本皇道會トシテ屢々言論(演說會)文書(ビラ、ポスター)機關紙、進言書)等ニ依ル積極的團體活動ヲ開始シ東條內閣當時ノ野蠻的態度ヲ一擲セリ即言論ニ於テハ九月一日赤坂三會堂ニ維新的必勝體制要望演說會ヲ開催セシヲ始メトシ同月十日以降十一月二十五日ニ至ル間ニ於テ荒川、豐島、城東、江戸川、足立、王子、瀧野川、板橋、葛飾、本所、下谷、淺草ノ各區内ニ前後十五回ニ亘リ聖旨奉戴議會報告演說會ヲ開催全國民眞ノ總奮起ヲ促シ戰意昂揚戰時內閣鞭撻支持ヲ強調シ文書ニ於テハ機關紙月刊「皇道」九月號ニ於テ皇戰ノ本義假威國民精神ノ昂揚ヲ力説強調スル等

行動アリタルガ之等ノ活動ヲ進ジ常ニ國內體制ノ即時維新的總切替斷行  
即チ舉國軍隊化即時斷行ヲ主張シ之ガ實現ヲ目標ニ積極活動ヲ續ケ來  
レリ十一月末ニ至リテハ愈々重大事態切迫シ危局内外ニ急迫セリト做  
シ在來ノ運動ニ於テハ中途半端ニシテ其ノ主張實現ハ不可能ナリトノ  
觀點ヨリ從來ノ團體活動ヲ停止シ目下今後行フ可キ具體的活動方策ヲ  
考慮中ナルガ主幹赤尾敏ハ「ソコ」ガ將來英米ト協力シ必ズヤ對日攻  
撃ヲ開始スベシト見解ヲ下シ居リ爲メニ舉國軍隊化即時斷行ノ實現ヲ期  
シツツ焦慮シ居レリ

又現政府ニ對シテハ一應政府支持ヲ表明シ居ルモ一面施策ヲ手續  
シ更ニ翼政會ノ現状ニハ強烈ナル反對意識ヲ抱持シ居ル狀況ニシテ今後  
其ノ動向相當注意ヲ要スルモノアリ

(十) 至 軒 寮 (鈴木五一)

本團體ニ在リテハ翼壯改組後鈴木五一ノ翼壯本部理事指導部次長ニ  
任スルヤ翼壯運動ヲ通ジ全國的ニ同志ノ獲得ヲ爲サント大イニ期スル

處アリタルガ偶々機關紙「學生青年運動」五月號（遲延八月十四日發行セルモノ）卷頭言安寧秩序ヲ害スルモノトシテ二十八日發禁處分トナリ責任者發生並木隆之助ハ九月十二日集會結社臨時取締法違反トシテ檢舉送局セラルルヤ翼政及本社本部革新陣營一部ノ反對分子ハ穗積五一ノ道德的責任ヲ追求シ翼社内ニ一波瀾ヲ生ジタルガ穗積ハ十二月二十六日遂ニ理事ヲ辭職セリ

(出)皇道翼實青年聯盟（豊島慶輔）

所謂四圍団体檢舉以來赤坂田町ノ事務所ニハ殆んど出入者ナク僅カニ高鍋哲夫出勤シ青年同志ノ結集柳屋立直シニ奔走シ在リタルガ本年五月事務所ヲ是川鐵業株式會社東京事務所ニ貸與シ機關紙「翼實運動」三軒發ニ於テ發行ヲ續ケツツアリタルガ委員長豊島慶輔ハ同志下合議ノ上十二月二十四日遂ニ解散届ヲ提出セリ

矢吹省吾

ハ九月十五日

小島清之 八月十八日  
毛呂清輝 八月十四日

各々保釋出所シ其ノ動向ニ就キ注意中ノ處豊島慶輔、毛呂清輝ハ中村武、飯島與志雄等ノ主幹セル尊懷同志會ニ加入セリ

(四) 大日本一新會 (百田益三)

本國體ニ在リテハ國民總力ヲ結集シ聖戰貫徹ニ資與セントテ國內態勢確立ノ急務ナルヲ強調シ專ラ聖戰阻礙的分子ノ絶滅ナル運動目標ヲ掲ゲ來リタルガ小磯内閣ニ對シテハ依然冷淡ナル批判的態度ヲ執リ、且ツ最近ニ於テハ翼政會ノ動向ヲ目シテ政黨復活の野望アリト斷シ斷乎粉碎スベシトセル強固ナル態度ヲ堅持シ居リ其人動向特ニ注意ヲ要スルモノアリ本期間ニ於ケル動向ヲ列擧スレバ左ノ如シ

1 集會關係

(1) 十月七日午后二時ヨリ同七時三十分ノ間本部事務所ニ於テ總務會ヲ開催總裁吉田益三以下十一名出席翼政會ニ對スル態度方針ヲ協

散會ス

(2) 十月八日午後一時ヨリ同四時ノ間日比谷公會堂ニ於テ東京都、軍事援護會東京支部、日本詩吟總聯盟主催ノ「米英擊滅全日本愛國詩吟大會」ヲ舉辦開催ス

(3) 十一月七日午後二時ヨリ同五時ノ間本部事務所ニ於テ總務會ヲ開催總裁吉田益三以下十一名出席

一 第二次南方派遣隊戰没者合同慰靈祭執行ノ件  
一 興政會排撃ノ具體的運動方針聲明書發表、演說會開催、訪問其

他ニ關スル件

等ヲ協議決定シ且ツ隨時小委員會ヲ開催ス  
一 河上利治、古井爲雄、星井眞澄ノ委員ヲ選出シテ散會ス

(4) 十一月二十三日午後二時ヨリ同四時三十分ノ間本部事務所ニ於テ總務會ヲ開催總裁吉田益三以下八名出席

一 第二次南方派遣隊員戰没者合同慰靈祭執行ノ件  
一 尊嚴一貫演說會開催ノ件

等ニ就キ協議散會ス

(5) 十一月二十三日午後二時ヨリ同三時三十分ノ間赤坂三會堂ニ於テ  
式ニ依リ執行ス  
出席者總裁吉田益三以下本部各地分營各代表其他來賓一五〇名

(6) 尊嚴一貫演說會開催

十一月二十八日自午後一時至同五時於大阪中之島公會堂

十一月三十日 自午後六時至同九時四十分於京都新聞會館

十二月 七日 自午後一時至同四時於名古屋公會堂

辯士 吉田益三 狩野 巖 河上利治

柴山 滿 船生利重

論旨 (綜合)

各會場共舉國態勢確立ノ見地ヨリ最近ニ於ケル翼政會ノ動向ヲ  
批判シ政黨復活の野望アリトテ之ガ排撃ノ言論ニ終始ス

2 文書關係

(1) 九月二十日學童疎開ハ我が家族制度ヲ沒却セル小乘的愛國觀ニ根  
基シ其ノ學童ニ及ス思想的影響重大ナリトシ全國各地分營ニ對シ  
右實情調査方下命ノ通達書ヲ郵送ス

(2) 十月十八日全國各地分營ニ對シ翼政會ノ動向ヲ嚴ニ監視シ之ガ政  
黨復活の野望ニ對シテハ斷乎粉碎ニ邁進スベシトセル指令書ヲ郵  
送ス

(3) 十一月二日各地分營ノ調査報告ニ基ク學童集團疎開實情報告要旨  
ヲ添付セル「學童疎開ニ關スル建白書」二十部ヲ作成首、内、藏  
厚、文各相其他内閣書記官長、内務、厚生、各次官等ニ宛郵送ス  
要旨 翼政會提案實施ニカカル學童疎開ハ我が家族制度ヲ沒却セ

ル小乘的愛國觀ニ出發セルモノニシテ學童ニ及ス思想的影  
響重大ナリ速カナル以開廢止ヲ要請ス 云々

(4) 十一月二十五日機關紙一新號外ノ形式ヲ以テ翼政會ノ打倒ヲ内容  
トセル「翼實政治會ニ與フ」ト題スル聲明書約七萬部ヲ作成シ官  
政財各界其他友誼團體知己關係等ニ宛テ郵送ス



(当)天關打開期成會(滿井佐吉)

「神界經倫ニ依ル天業翼贊」ヲ主張セル主幹滿井佐吉ノ神恩的態度ハ最近特ニ昂シク來リ、六ベキ義相ヲ示シツツアリ爲メニ會員ハ漸次離反脫會シ且ツ資金難ニ加ハリテ會勢日ニ不振ノ途ヲ辿リ團體ノ運動格別認メラレザルニ於ケル主ナル行動左ノ如シ

1 主幹滿井佐吉ハ九月十四日神傳武道ノ採用普及ヲ要請セル進言書ヲ作成シ首相外各相並ニ重臣軍首腦者等ニ宛郵送セリ

2 主幹滿井佐吉ハ九月三十日ヨリ三日間鹿島神宮ニ於テ修齋講習會ヲ開催セリ 受講者七名

3 主幹滿井佐吉ハ十一月二十六日中島飛行機株式會社十二月四日同月十一日明治神宮十二月五日日枝神社ニ於テ改機部員入擊退ノ劍祓祈願ヲ行ヘリ

4 主幹滿井佐吉ハ十一月二十九日米英學派ノ爲メ神人滿井ニ靈劍ヲ奉振セシメラレタシトセル進言書ヲ作成首ノ部、海、各相參謀總長軍令部長等ニ宛テ郵送セリ

5 主幹滿井佐吉ハ十二月五日小泉太志、小林尼水ノ兩名ヲ帶同シテ首相官邸ヲ訪問首相不在ノ爲メ秘書官ニ面接米英學派敵機退散ノ靈劍奉振ヲ爲サシメヨト進言退去セリ





面へノ飛躍的進出ヲ親ヒテ先導的ニ政治工作ニ果奔四走シツ、アリ、  
 斯ノ如ク本會ハ無勢擴張並ニ政治的進出ノ爲ニハ具ノ手段ヲ濫バザル厄  
 限性ヲ多分ニ包藏シ特ニ本會ノ特異性トシテ受刑者ヲ眞摯感誨ノ言動ヲ  
 弁シ幾ニ朝比奈翁ヲ知告セル

國粹挺身隊長 剛 出

得

ヲ英雄視シテ其ノ行爲ヲ體諒スル等純真ナル青年分子ニ與ヘル影響極メ  
 テ注意ヲ安スルモノアルヲ以テ王安分子ノ切實ニ聞シテハ勿論之レガ  
 青年分子ノ切實ニ對シテモ誠意感服中ナリ

具ニ本年九月以降官下ニ於ケル王安運動ヲ概記スレバ

1 十一月二十三日、日比谷公會室ニ於テ戰意却揚演說會開催。

聽衆約三、〇〇〇名、

辯士笹川良一以下五名執レモ氏心ノ憤慨ヲ從ヘテ現下ノ配給事情ヲ批  
 判シ自史ノ責任問題ヲ擧ゲテ聽衆ニ迎合的言動ニ出デタル爲聽衆ハ終  
 始拍手ヲ送り菊地東一郎注意一併散會セリ

2 聽衆笹川良一ハ十一月二十五日單身羽出ヨリ空路渡鮮半島同胞處過

起ニ歸シテ祝祭ノ上十二月八日歸京セリ、

川長一八十二月二十四日、芝區新橋驛前、塚前工業會館ニ於ケル八  
日會社會ニ出席シテ松平浩一郎、平野力三、水谷長三郎以下十三名  
ト共ニ八十五時議會ニ出席セル言論諸取締法改廢ニ關スル建議案  
ノ件ニ就キ議會休會明ニ總會ヲ閉催シテ態度ヲ決定スル事ノ申合セラ  
爲セリ、

(法) 元東方向志會 (故 中野正剛)

本會ニ在リテハ藝ニ自發的ナル結社解散屆提出後、機關紙「東大陸」

東方時報」ヲ併合統一シテ「我報」ト改題三毛雪嶺ヲ中心トシ

進 藤 一 崎 長 谷 川 敏

小笠原由公等ノ陣容ノ下ニ七月ヨリ引續キ月刊約五、〇〇〇部ヲ發行シ

テ現在ニ至ルガ其ノ讀者層ハ依然トシテ舊會員ガ百位ヲ占メ其ノ記事ニ  
於テモ中野正剛ヲ追慕スルト共ニ時ニ於テハ文化雜誌ノ域ヲ逸脱シテ果

條前首相ノ追討的記事取見セラレタリ

本年十月故中野會長ノ一過忘ヲ迎フルニ當リ特ニ十月號ヲ「中野正剛先生追悼號」ト銘打ツテ増刊シ同志的軼帶ノ強化ニ努メ地方官員亦政局ノ進歩ト政局ノ推移ニ伴ツテ黨ノ再建ヲ望ムルモノ逐次増加ノ傾向ニアリ此ノ概ニ處シテ三田村武夫ハ公判ヲ重ヌルコト七回逐ニ十二月二十八日無罪ノ判決アリタル爲メ自己ガ中野會長ニ次グ政局幹部トシテ黨ノ再建ニ乘由シ度キ意嚮ナルモ比較的穩健派ト目サル、進藤一馬、長谷川以下王安會幹部ニ於テハ左程迄三田村ニ心服セズ

1 中野會長ニ次グ統率者未ダナキコト

2 許可ニ對シテ難巴アルコト

等ヲ考慮日重シ俄ノ熱スルヲ存望中ナルヲ以ツテ王安會幹部ヲ網羅セ

三田村武夫王 幹ノ幽霊結成ハ目下ノ所、相當難巴ヲ免レザル狀況ニアリ  
テ寧口十月十八日、進藤一馬ノ玄洋社々長就任ニ伴ツテ舊會員ニ於テハ  
東京支社ノ副設ヲ安室シ居ルヲ以ツテ將來王安舊會員ヲ其ノ傘下ニ收メ  
タル玄洋社東京支社ヘノ發展性、極メテ濃厚ナル現況ニアリ

猶注意ヲ安スルハ本會關係者青年分子中ニハ今向ホ中野止剛ヲ狂信的ニ  
崇拜シ極拳ヲ安以ノ大獄ナリト伊母ニ偵察ヲ持スルモノアリタルガ之等  
分子ハ三田村武夫ノ無非判決ニ依リ今復益々矢張り化スルハ台ミ難キ事真  
ニシテ此ノ動靜注意中ナルガ本年九月以降ニ於ケル王安勸解ハ  
1 九月三十日我輩社事務所ニ於テ

三田村 武 大 進 藤 一 馬  
長谷川 坂 中 野 泰 介  
永 出 正 我

以下舊本部員兼命シ中野正剛一過忌法要ニ歸スル打合ノ席上、三出村ヨリ果万會再建ニ願シテ打診スル所アリタルガ長谷川收ヨリ會長ヲ何人ニ依頼スベキヤモ考慮セズシテ幽體結成ハ不可能ナル旨ノ意見ノ開陳アリ結願ヲ見ルニ至ラズシテ散會セリ、

2 十月十五日舊本部員名既ヲ以ツテ發送セル中野正剛追俾會案内狀中一東條は野たれ死一云々ノ記事アリシヲ以ツテ即日發案處分トナル、

3 十月二十七日築地本願寺ニ於テ中野正剛一過忌追俾會開催、箱方國務相、嵐兒草、中村良三、公井右衛門、眞崎西三郎、南次郎、荒木貞天、岡田忠彦、鳩山一郎、小泉又次郎、正力松太郎、大野辰夫其ノ他名士

舊會員等約四〇〇名ノ參列者アリタリ

4 同日帝國ホテルニ於テ政友會及知人王安舊幹部等約八〇名參會シテ追俾會

餐會ヲ開催ス

5 同十八日多摩墓地ニ於テ進藤一馬以下舊會員約四〇名出席シ進藤式ヲ行ハ

6 十二月二十一日赤坂區榎吉町兼出候爵邸ニ於テ進藤一馬ノ玄洋社々長

任披露ヲ兼木東地氏族懇談會ヲ開催、廣田弘毅、箱方國務相以下大座允

覽者並ニ右與關係者等約三〇〇名ノ出席者アリタリ、

(六) 望戰完勝會 (有馬俊郎)

本會ハ「大東亞共榮圈研究會」(王幹川、瀨宏親)ノ俊身ニシテ講究會ハ南方雄飛ノ指導者養成ヲ主目的トシテ總成會、座談會等ヲ開催セル他見ルベキ運動ナリシガ其後大東亞戰局ノ凄愴苛烈化ト四歐極端小國家群ノ脱落等ニ刺戟セラレ望戰完勝ノ副産ハ皇國維新體制ノ確立ニアリトシテ本年八月十七日、大東亞會議ニ於テ之レガ結成準備ノ會ヲ開催、事務所

ニ設ケ九月十七日結成許可處分トナリテ現在ニ到リタルモノナルガ本會ノ符共任ハ

- 澁谷區原宿二ノ二〇三番地
- 元亦誠會關係 (高平辰五郎)
- 大日本同志會關係 (松本徳明)
- 言論報國會關係 (鹿子木貞信)
- 啓明社關係 (石井實雄)
- 神代文化研究所關係 (白鳥敏天)



皇國學園關係（卷五）

元勳皇まことむすび關係（四三千春）

現英壯派（連川美次）

元英壯派（實太郎）

其ノ他純正日本主義陣営ノ英壯派的性格ヲ有シ特ニ結社許可處分後ニ於  
テまことむすび關係者ノ急進分子ガ遂次消勢力ノ片鱗ヲ現ハシ之レガ中  
核体タラントスル英壯ヲ多分ニ包攝セリ、然ルニ其ノ彼之レ等、精銳急  
進分子ニアリテハ本會ノ所謂大衆的運動形態ト夫雜物的ナ結合ニ飽足ラ  
ズ尊嚴同志會ニ順次交替ヲ爲シ其ノ色彩幾分稀薄化セルハ事實ナルモ今  
猶ホ本會ト尊嚴同志會ハ姉妹關係ニアリテ其ノ主要幹部ハ殆ンド兩者ヲ  
兼ね居ル眞情ニテ特段ノ注意ヲ與スル狀況ニアリ

而モ本會ハ現内閣ヲ八方美人的物證内閣ナリト評シ望戰完勝ハ強力内閣  
タラザルベカラズトノ批判ヨリ順次反政府的脚角ヲモ窺見シ其ノ言動ニ  
於テモ切腹眞仕政治ノ確立ト殉國精神ヲ望シ或ハ指導者階級ノ急退却  
ヲ強調スル等急進分子ノ公在ト共ニ相當注意ヲ與スルモノアリ九月以降

ノ主要運動次ノ通りナリ

1 九月二十五日、日比谷公會堂ニ於テ結成第一聲トシテ昭和維新國民有

志大會開催、聴衆八〇〇名

辯士參議松永村、以下五名

孰レモ責任政治ノ確立ト一億君前戦死ノ誓ヲ要望セルガ岩野元一郎ハ

東條前首相ヲ誹謗シテ任意一件、感動普遍、

2 十月十五日同場ニ於テ坐戦元座演說會開催

辯士參議日島禮夫以下五名

學政森藤治中止一件

3 十月二十日「護國生産我男軍運動要綱」ト題スル印刷物一五〇部ヲ作

成、政界王安工場方面ニ発送、其ノ意嚮ヲ打診セリ、

4 十月二十二日、日比谷公會堂ニ於テ同演說會開催、聴衆五〇〇名、

辯士參議森清人以下四名事敗ナシ、

5 十月二十九日同場ニ於テ同演說會開催、聴衆四〇〇名

辯士金子拙郎以下五名

學政松本勝三郎任意一件、猶本會席上緊急動議ニ依リ、獨逸政府外決  
議又ヲ決定セリ、  
十一月二日代表者仁昌武天以下五名ニテ獨逸大使館ヲ訪問シ、  
マール大使ニ石原勳又ヲ回接手父セリ、

(七) 東亞聯盟同恣會 (和田 勳)

本國体ハ石原完爾顧問ノ指導理念タル昭和維新ヲ絕對信念トシテ人類  
歴史ノ最大關節タル世界最終戰ハ三十年以内ニ近迫セリ依ツテ之レニ即  
應正道ニヨル東亞兩國家ノ結束即チ東亞聯盟ヲ新成シ以テ聯盟運轉時格ヲ  
必勝無難ニ備強化ヲ具現スルヲ義務トシテ王張ノ許ニ本國運轉ノ定勝ニ  
先ズ支那ノ争變ノ解決ニ任リ而シテ國內政治整理ハコレニ即應セズ小政内  
國ハ弱体無策ニシテ決戰的應策ヲ期待スル事ヲ得ズ、從ツテ早急ニ官憲  
ヲ改革石原ノ出馬ナクシテハ此ノ危局ヲ切り扱ク事ヲ待ズト官憲内閣  
ヲ強固全國各地ニ講演會、座談會ヲ開催スルト共ニ強固統一東亞聯盟ニ  
ヲ發行シ只官組織ノ擴大強化ニ壯弁シツツアリ  
而シテ東亞聯盟ハ將來政治團體トシテ政治分野ニ進出スル事ガ國家的要

務ナリト揚言シ本脚盤ノ編化ヲ公言シ

殊更ニ統制艦隊ノ缺陷ヲ諸大ニ揭示シテ攻撃或ハ官儀御香政治ト誹謗シ  
反政府的言辭ヲ并スル等守候ニ於ケル動向ハ就イテハ相當注意ヲ要スル  
モノアリ、

九月以降ノ王ナル動向ヲ察ゲレバ

1 九月三日吊任安員牛島辰照ハ參謀本部角出少佐迎ニ淺原健三ト不穩事  
件關係嫌疑ニ依リ東京憲兵隊ニ假擧サレ目下軍法會議ニ於テ審理中

2 九月十五日日本郵員小泉菊枝ハ「東亞脚盤」と略稱の氏」ト題スル小冊子  
五百部發行ス、

3 九月二十一日顧問右原完爾ハ上野、小幡智根ニ回接、對支、對露政策  
ニ付キ意見ヲ開陳ス、

4 十月十三日中大參典曾良山口皇次「皇族内閣の意義」ト題スル印刷物  
ヲ發行、發禁處分トナル、

5 十一月二十日顧問右原完爾ハ中央委員牛島辰照ノ參考人トシテ二十一  
二十二日ノ兩日軍法會議ニ出席二十三日歸形ス、

6 本年四月以降「昭和維新」指導原理」ト稱スル單行本ノ内容ニ就キ内務當局ト折中ノ處十一月十八日四ヶ所創隊ノ上發行ノ許可ヲ得十二月二日、三千部發行會員ニ頒布セリ、  
十二月十三日石原莞爾ハ得ビ中央委員牛島辰興ノ參考人トシテ招喚ヲ受ケ上京、十四日軍法會議ニ出席十五日陸軍省訪問、柴山次官ト面談十九日歸形ス、

(大) やまとむすび (佐々井一英)

本國體ハ經濟維新ヲ進シテ國內維新ノ實行ヲ急顯シ王幸佐々井一英ハ「皇國獨目ノ國家主義經濟體制ノ確立」ヲ提唱シ俄爾「維新大日本」ヲ進シテ之ガ普及徹底ヲ圖ルト共十一月十四日ニハ日比谷公會堂ニ於テ講演會ヲ開催王幸佐々井ヨリ「皇國必勝ノ大道」ト題シテ皇國必勝經濟維新ノ斷行ヲ安望スル所アリタリ  
マタ本年三月ノ全國大會ノ決議ニ基キ爾來專ラ下部組織ノ擴充強化組織地區ノ獲得ニ重點ヲ注ギソノ組織活動ノ王力ヲ東京ヲ始メ兵庫、神戶、福島、群馬、新潟、岐阜、大阪、愛知、長野、山形、岩手、神奈川等ニ

直キ都下ニアリテハ十月ヨリ血川、大森、浦田等京濱工場地帯並、澁谷  
世田谷等城四方画ノ各所ニ於テ演説會ヲ開催スル等未組織地區ノ獲得ニ  
邁ミ銳意努力中ニシテ本年三月至國大會候ノ會員獲得狀況ハ約一千名ナ  
リト目稱セリ本期間ニ於ケル主ナル行動ヲ擧グレバ左ノ如シ

十一月四日午後一時ヨリ東京日比谷公會堂ニ於テ「玉碎復仇戰意激發  
必勝体制確立演説會」ヲ開催、出席六〇〇名、常任理事神田政彦ノ開會  
ノ辭ニ次キ王幸佐々井一兆ヨリ「皇國必勝ノ大進」ト題シテ

一生進ノ國家性ヲ更ニ徹底シテ強化スルコト

ニ國體觀ニ立脚スル財政經濟政策ノ確立並國體觀ニ立脚スル國民勤  
勞体制ノ確立ヲナスコト

三廣義國の計畫ノ元途符ニ國民的生存ノ意義尤實ノ方策ヲ講ズベキ  
コト

四國民ノ則ニ大東亞皇道經綸ノ真義ヲ明カニシ以テ戰爭目的ヲ明確  
ニ認識セシメルコト

五大東亞戰爭ヲ進シテ日本民族ハ怒々精神のキ立直ツタ！即チ真

二 欲テ皇國必勝ノ大進ノ真髓ヲ体侍シタコト等々ニ就テ力説シ  
 特ニ 皇國必勝ノ大進ノ真髓ヲ体侍シタコト等々ニ就テ力説シ  
 感 應 ヲ 興 ヘ タ リ  
 2 副 題 ノ 外

- (1) 十月十四日 品川區五反出二丁目 宇都呂會館
  - (2) 十一月十三日 品川區四品川 三ツ木國民學校
  - (3) 十一月十六日 浦出區本浦出 北浦國民學校
  - (4) 十一月十八日 磁谷區幡ヶ谷 幡ヶ谷小町國民學校
  - (5) 十一月二十一日 世出谷區北岸 北岸國民學校
- 等ニ於テ天々演説會ヲ開催、佐々井王幸、押出高仕埋等、白井本、長等  
 ヨリ大果皇戰事必勝ノタメ即時必勝經濟體制ノ確立ヲ主張力説、附近  
 任氏、工場労働者等ニ多大ノ感動ヲ興ヘル所アリタリ。

(五) 事件關係者

1. 皇國事件關係

日台爭開上昭ヲ盟王トスル事件關係者ハ依然、表面活潑ナル行動ヲ

レザルモ時折、牛込區佐内町三六ノ自宅ニ四元義隆、小治正、百内栄司、小幡五郎、出中邦男、須出太郎、兼澤大二、副田虎雄、柳引正三、三上卓、高松敏雄、佐藤守我、谷川仁、西郷隆秀、杉村正藏寺同志會合シ血盟的契リヲ堅メ具ノ結合ヲ強化セシメツ、アルノ状況ニシテ

日名ノ小幡内閣ニ對スル勸回ハ祖國當初ニ於テハ好意的ニナリシガ戦局ノ功キ可ナラサルニツキ本内閣ニ戰爭指導ノ能力ナキモノトノ意見ヲ有スルニ至レリ、本内閣ヲシテ遂ニ國內政治力強化等ヲ實行シ戦局打開ノ方途ニ邁進セサルニ於テハ戦局ノ前途計リ知レザルニ至ルトノ意圖ヲ有シ遂カナル強力政治ノ具現ヲ叫ビ本名ヲ巡ル事件關係者ノ勸キ極メテ注視ヲ安スルモノアリ、而シテ

(1) 同志四元義隆ハ五、一五事件關係者三上卓ト依然舊關係ノ關係ニアリ兩者共辛ノ下ニ呈風學舎ヲ結成學ヲ學生運動ヲナシツ、アリタルガ三上ノ真江入り以てハ真江運動ニ影ノ相談役トナリ元タリ弟タル關係益々密ナルモノアリ

(2) 百内栄司ハ水戸産報運動ニ専念シ



(1) 小幡五郎ハ次城縣果次城郡入沅沅ニ於テ大謀納ラ殿宮

(2) 其ノ他小幡五郎、出甲邦雄、伊藤元、須出太郎寺何レモ侍典助向ナキモ時々日台ヲ訪問、子弟ノ關係感々當夜ヲ加ヘツ、アリ

2 不同意一郎關係

古事記研究會王幹、若出一並小幡成雄、日本志徳研究會王幹石井忠一寺ヲ率下ニ次城縣下ヲ王体トスル、所謂一縣勳呈進助ヲ以テ同意獲得ニ并走シツ、アル方史ニ一方本名ハ幾ニ大泉忠協會ノ名ノ下ニ各種簡致ノ處集ヲ爲シ政府當局ニ進言スル所アリ其後ニ於テモ引續キ進言スル所アリ

(1) 九月二十八日ニハ農村ノ勞力問題ニ關シ現下ニ於ケル増産計畫ハ農村ノ勞力ニ勞力ノ都市集中心ヲ以テシ其結果ハ食糧増産ニ必須ナル農村ノ勞力ヲシテ此シク物体化セシムル眞情ニ在リ斯クテハ政府當局ニ於テ礼上ノ増産計畫ヲ爲スモ何寺ノ成案ナシト爲シ次城、埼玉兩縣下ノ勞力ノ眞情ヲ調査ノ上協管理争戾不喜久雄寺ヲ代表トシテ就同會ニ進言セリ、史ニ又

(2) 九月三十日ニハ學皇塚開闢ニ關シ現在ノ國民學校校舎開ハ日本古來ノ  
 美風トスル家族嗣後ヲ敬慕スルモノニシテ又當局ニ於テ具體的ナル之  
 レガ立派ナカリシ結果ハ各處ノ弊害ヲ蠲シツ、アリト爲シ次敷、長野  
 兩縣下ニ於ケル真相ヲ調査ノ上東京都並又都省寺ニ進言セリ、  
 其其他燃料増産ニ關スル努力唯休ニ對スル意見書ノ徒由等各種ノ情報進  
 言ヲ以テ野村下ノ一助ニ爲サント奔走シツ、アル一方茨城縣下ノ同志  
 大内地山寺ト案出ナル連繫ノ下ニ同縣下磯濱町馬船奉公會等ニ關係  
 其種増産ノ名ノ下ニ日巳ノ地盤並同志獲得ニ沾蒙ナル運動展開中ニ任  
 リ

3 前出虎雄關係

本名ニ在リテハ同志井上日台トノ連絡ヲ密ニスル一方引續キ魂ノ結ビニ  
 依ル青年ノ結果ヲ束シツ、アル方對政府視ニ就テハ小磯内閣ハ大和一致  
 民意ノ暢達ヲ以テ一億總感起應勢傾立ヲ標榜スルモ現在ニ於ケル指導層  
 ナルモノハ異政曾共他例レモ方起去ノ既成人物ヲ以テシ供テニ  
 々スル寺歐州戰局ノ皇大厄彼ニ阻出セル今日難局突彼ノ能力ヲ有タズ現

在ノ國情ハ全ク多クシテ船山ニ上ルノ類ヒニ洩レザルノ真情ニアリ、  
トノ見解ノ下ニ日語ノ言助トシテハ  
車番工物ノ國宮、對支問題ノ解決、統制經濟ノ根本的改單  
等ヲ強調スルモ日下ノ處行段ノ如何ヲ示サズ時局ノ重安任ニ鑑ミ特ニ時  
勢的態度ヲ以テ十一月二十五日ヨリ上海在任眞卿方ノ所用ノ爲ト稱シ  
奉天、北京、甯京等ノ祝祭ヲ兼テ上海ニ向ケ旅行セリ、  
四五、一五事件關係  
一日 主 野 中 也 入

(二) 三上 早

本名ハ本年八月興壯埋事ニ就任シ爾來興壯運動ニ關係スル一方云ル六  
月創設セシ皇風學舎ニ於テ青年学徒ノ黨ヲ養成ヲナシ來リタルガ適放  
生起セル興壯埋事礎積五一、王辛ノ主幹兼機關紙卷頭言問題ヲ統ル興  
壯幹部間ノ内紛ニ關シテハ礎積ノ立場ヲ支持シ具ノ如何在目セラレタ  
ルモ遂ニ十二月二十七日礎積五一、大森有聲ト共ニ埋事ヲ退キ參興ノ  
任ニ就ケリ、然レドモ興壯ニ對スル本名今侯ノ態度ニハ相當注意ノ要  
アルヲ認メラル、狀態ニ在リ、

而シテ皇風學舎ハ取近資金難並ニ收容学徒ノ勤勞勤員等ノ理由ニ依リ  
其ノ總管意ノ如クナラサルモノ、如ク十一月下旬頃ヨリ漸次發生離散  
シ十二月下旬ニ至タリテハ一名ノ在寮者モ無キ状態ニシテ近ク解散ス  
ル候様着取セラル、

本期間ニ於ケル王ナル行動左ノ如シ

イ、十月一日真壯佐真文部離此問題ノ調停ノ爲メト稱シ郷里佐賀縣ニ  
旅行、同月二十四日歸京セリ、

ロ、十一月三日真壯ノ安務ト稱シ北海道方面ニ旅行、歸途青森、山形  
兩縣下ニ立寄り同志ヲ訪問事トハ離談會ニ出席スル等ヤ同月二十  
七日歸京セリ、

## 2 杯 正義

本名ハ「現戰爭」ニ歸スル案謀事ハ南方資源ノ輸送問題ニ在リ其ノ打開  
策トシテハ船加増産ノ外ナシト王張シ陸軍院部隊ニ關係アル事業ニ  
富ル一方最近ニ於テハ出中清玄、山下知彦等ト共同シテ千葉縣下野子  
ニ造船所ヲ經營スベク量東中ニシテ日下ノ處事業ニ専念シ居ル外特

衆ノ行動認メラレズ、

同十月二十四日海洋砲臺至爭務所ヲ芝區新俵田町十九番地ニ移轉セリ、

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

二 公判關係

一 元勤皇まことむすび關係

1 天野辰天等ノ言論爭犯

元經新公論社關係ノ大野辰天、芥川治郎、市毛康隆等ノ言論出版集會  
結社等臨時取締法違反事件ハ東京區裁判所長井判事係リニテ審理中ノ  
處本年五月十五日ノ第四回公判ニ於テ芥川、市毛兩被告ニ對シ夫々判  
決言渡シアリ之レト同時ニ大野被告ハ病氣ヲ埋田ニ分離セラレタルガ  
六月十三日ノ第五回大野被告ノ公判ニ於テ戰時下ノ審理促進ト眞實發  
見ノタメ裁判所ノ必妥トスル事項ヲ被告ヨリ書面ニテ徵シ尙足ラザル點  
ハ被告ノ身體ト曉ミ合セ法廷ニ於テ訊問スル事ト決定セルガ爾來天野  
被告病氣ノ故ヲ以テ公判開廷ニ至ラズ現在ニ至レリ、

2 平治國務相狙撃事件

昭和十八年五月東京州事地方裁判所ニ於テ第一回公判開廷以來、本年  
八月十六日ノ第八十八回ニ及ブ公判ニ依リ一切ノ事實審理ヲ終了シ同  
年十一月八日

同裁判所第六號法廷ニ於テ石出裁判長係リニテ公判開廷セラレ裁判長ハ被告側ノ主張タル凶器防護ニ基ク正當防衛乃主誤想、過剰防衛ヲ全面的ニ否定シ懷譽ノ論告、理由ヲ認メ各被告ヲ殺人未遂並銃砲火藥類取締法施行規則違反トシテ

懲役七年（未決通算四百五十日）

被告 片岡 駿

右 同 （未決通算五百日）

被告 中村 武

右 同 （未決通算四百五十日）

被告 四山 直

殺人未遂幫助トシテ

懲役一年（三年間執行猶豫）

被告 土居 三郎

ノ判決言渡シアリ更ニ本件ニ併セ審理中ナリシ各年二月ノ中村武ニ係ル言論出版果會結社等臨時取締法違反並ニ陸軍刑法違反被疑事件ニ對

シテハ前段違反ハ犯罪ヲ構成セズ無罪、似段陸軍刑法違反ハ有罪トシ  
テ本件判決ニ合併セル旨言渡シアリテ閉廷セルガ本判決ニ對シ檢事局  
ニ於テハ量刑不富トシ翌九日ニ片岡、中村、四山ノ三被告ニ對シ上告  
アリ更ニ被告側ニアリテハ國庭防護ニ基テ正富防備乃至誤想過剰防備  
ハ認めラレザルモ私心ナキ被告等ノ行動ヲ認めタル判決トシテハ量刑  
過重ナリトナシ片岡、中村ニ關シ辯護人四山本人ヨリ同月十三日夫々  
上告手續了セリ、

中村武ニ係ル松石一家入争件公判

本年八月三日東京控訴院第三號法廷ニ於ケル飯塚裁判長係リニテ被告  
中村武出頭ノ下ニ閉廷セラレタル本件第五回控訴公判ニ於テ裁判長ヨ  
リ「第一審判決タル過剰防備ハ富ラス、假令ノ主張スル殺人罪ヲ採用  
シ情狀酌量ノ上懲役三年ニ處スルノ判決言渡シアリテ控訴審ヲ終了セ  
ルガ中村被告ハ本判決ヲ不服トシ直チニ上告セル處同年十一月二十二  
日大審院第一號法廷ニ於テ三毛裁判長係リニテ陪席判事江藤、三宅  
戸澤、飯塚立會ノ下ニ公判閉廷セラレ裁判長ヨリ「中村武ニ對スル殺人



事件ノ上告ハ之ヲ棄却スルトノ判決言渡シアリテ附廷結審セリ。

斯クテ昭和十二年八月午込區早稻田鶴卷町二二三番地、維新公論社階

上ニ於テ大日本生産黨亞地正維新共同青年隊解散ニ關スル記事掲載ニ

因リ誹ヲ發シ強談ニ訪問セル生産黨員松石一ヲ口誦ノ末殺傷セル本件

爭犯モ約八年越ニテ結審トナリ、被告中村武ハ取早刑ノ執行ヲ待ツノ

ミトナリタリ。

尙中村被告ハ本年末花井辯護人ヲ通シ大審院宛、肺侵潤並結核性痔疾

症ヲ埋田ニ執行延期願ヲ提出セルノ状況ニアリ、

戰刑法違反被疑事件

昭和十八年十月二十一日ノ所謂四團體一齊復讐ニ際シ復讐セラレタル

元勳呈まことむすび關係者芥川治郎ハ本年二月義ニ憲兵隊ニ於テ復讐

ヲ見タ拍大生事件ノ關係ニ於テ戰刑法違反（煽動非）トシテ起訴收容

セラレタルガ其ノ依據番ニ廻サレ爾來引續キ審理中ナリ。

(二) 大東塾關係

1 古賀元帥葬式妨害事件

塾同人野村辰天ニ係ル故古賀元帥海軍葬々式妨害事件ニ就テハ本年八

月五日東京區裁判所ニ於テ憲法十月ノ判決言渡ヲ受ケ上告中ノ處其後  
平名ハ時局ノ重安任ラ深ク考慮スル所アリ十月二十三日東京控訴院宛  
上告取下手續ヲ爲シ取非セリ、

2 國家總動員法違反事件

塾生同人竹川哲生、外四名ニ依ル國家總動員法違反事件ニ就テハ夫々  
東京控訴院ニ上告中ノ所

戸出

杯弘

八月二十四日

竹川

哲生

九月十五日

川野

定道

九月二十七日

藤山

又雄

十月十日

返藤

總

十月十日

天々上告棄却ノ判決言渡アリ本年十一月二十七日竹川哲生ノ下獄ヲ敢

俊トシテ何レモ東京控訴院所ニ收谷セラレタリ、

(三) 元國家總動員

1 三浦義一等ノ中野久平狙撃事件其他ノ違反ニ關スル控訴者

三浦義一、渡部退春ニ係ハル中島知久半祖拳事件其他ノ違反ニ關スル  
第一回控訴審ハ昭和十八年六月二十四日東京控訴院第六號法廷ニ於テ  
藤井裁判長係ニテ三浦義一ハ病氣缺席ノ爲メ分離シ開廷セラレ潮俊四  
回ノ公判ノ結末同年七月六日被告渡部退春ニ對シ

懲 役 六 ヶ 月、三ヶ年間執行猶豫

ノ判決言渡（確定）アリタル方分離中ノ三浦義一ニ對スル第一回控訴  
公判ハ十一月二十五日東京控訴院第六號法廷ニ於テ藤井裁判長係ニテ  
被告辯護人若出春之助出廷開廷、香江源學ノ公訴事實ノ陳述ニ次イテ  
被告控訴理由豕族關係學歴生活狀態資産收入意思ノ推移趣向増減等  
狀該副科寺ニ就テ訊問アリ次同ハ期日ヲ定メ違テ通知スル旨ヲ宣シ開  
廷セリ

(四) 皇道真實青年柳盜關係

1 小島玄之ノ言誣事犯

小島玄之ニ係ル言誣凶賊兼會結社等臨時取締法ニ關スル違反被疑事件  
ハ昭和十九年九月十三日東京區裁判所ニ於テ第一回公判ヲ居録判事三  
備懷事係ニテ開廷、裁判長ノ訊問、懷事ノ誣告求刑（懲役六ヶ月）

リテ無事閉廷セリ

次テ九月十八日第二回公判ヲ開廷、懲役四ヶ月（未決通算四十日）ノ  
言渡アリ無事閉廷セリ

尙小島玄之ハ本言渡ヲ不服トシテ上告中ナリ  
（元東方向憲會開休）

1 三田村武天ノ言論争也

三田村武天ノ言論出版會結社臨時取締法違反彼疑事件ニ關シテハ  
九月十四日東京刑争地方裁判所第一號法廷ニ於テ八木出裁判長餘リ桃  
澤愼事立會ノ上第三回公判開廷事實番地ヲセラル、

2 九月十六日向法廷ニ於テ第四回公判開廷セラレ八木出裁判長ヨリ前回  
ニ引續キ事實番地ヲ履行セラル、

3 九月十九日向法廷ニ於テ第五回公判開廷セラレ桃澤愼事ヨリ言論出版  
會結社臨時取締法違反トシテ懲役六ヶ月ノ求刑アリタリ

4 十一月十一日向法廷ニ於テ第六回公判開廷セラレ被告側ヨリ提出セル  
辯論再開願ニ關スル争点ニ就キ事實番地セラレタリ

5 十一月十八日向法廷ニ於テ第七回公判開廷セラレ永田正義、長谷三夫

ヲ証人調セラル、

十二月二十八日同法廷ニ於テ八木田裁判長ヨリ「被告ノ爲セル言動ハ不特定人ニ爲スニ於テハ人心ヲ惑亂セシムベキ事項ニ該當スルハ明カナルモ被告ハ東方向志會ナル公認結社ノ最高幹部トシテ其ノ特定幹部ニ級上ノ如キ批判ヲ爲セルハ相社ノ内部的口実トシテ認斷サルベキモノト認メ此處ニ所謂人心ヲ惑亂セシムベキ事項ヲ流布セルモノト云フヲ待ズ」トノ理由ヲ直シ無非ノ判決アリタリ、

保安課長  
秘

*(Handwritten signature)*

事務官  
*(Handwritten signature)*

昭和二十年 自一月  
至四月

革新陣營

情勢

一、政局、悪化に伴って暴動  
 勃発し、シキリナリ

一、現内閣に對してハ、批判  
 の怒りを持て、期待甚

一、國民義勇隊、結成シ、  
 多大ノ関心ヲ蒙リセシ、

一、股々相市注意ヲ  
 要スル情勢ナリ

特高第一二課



目次

一 概 說

二 主ナル團體ノ動向

(一) 大日本義實壯年團 (縮方竹虎)

(二) 尊攘同志會 (飯島與志雄)

(三) 大日本一新會 (吉田益三)

(四) 聖戰完勝會 (有馬俊郎)

(五) 國粹同盟 (笹川良一)

(六) 天國打開期成會 (滿井佐吉)

(七) 大東亞 (影山正治)

(八) 鶴鳴莊 (摺建甫)

(九) 神風特攻後續隊 (常岡瀧雄)

三 事件及公判關係

(一) 事件關係

(二) 公判關係

一 一六 一四 一三 一一 一〇 六六 一 二〇 二〇 一八 一八 一六 一五 一四 一三 一一 一〇 六六 一 二〇 二〇 一八 一八 一六 一五 一四 一三 一一 一〇 六六 一

M. Fujii

Condition of reform campaign  
(January - April '45)

I. General views

II. Activities of important parties

Dainippon-gokusai-sonen-dan

Pres. Ogata Taketora

In January former president Tatekawa  
resigned.

III. Incidents and trial.



一 概 說

第八十六帝國議會ノ推移ヲ注視シテアリタル革新陣營ニアリテハ再會劈頭  
於テ採リ上ゴラントル翼政、其眞、翼壯解体ニヨル國民運動ノ一元化  
ヲ目指ス學國的單一政黨結成ノ謀ニハ陣營ヲ痛ク刺戟シ斯ル翼政ノ政治  
攻勢ハ翼政幹部ノ國民運動化ノ美名ニ隱レタル政黨復活地盤擁護ノ野望  
ニ基クモノニシテ次期政權ヲ約束セル政治的圖取引ナリト斷シ舊政黨的  
色彩ノ進出ヲ警戒シ如斯自由主義ノ進出ヲ許容スル小磯內閣ノ政治力ヲ  
云爲シ速カナル桂冠ヲ冀求スル狀況ニ在リタリ一方翼政ノ政治的攻勢  
下ニ於テ翼壯團長建川美次ハ辭意ヲ表明セルヲ以テ國內騷然タルモノアリ  
他方本部ヲ狙フ帝都翼壯一部ノ取動モ錯綜シテ其ノ歸趨逆睹シ難キ狀勢  
ニ在リタルガ遂ニ建川團長以下幹部ノ總退陣トナリ緒方翼贊會副總裁ノ  
團長兼務トナリ翼壯ハ其ノ性格ヲ一新シテ行政ノ補助推進機關トシテ新  
發足スルニ至レリ

元赤誠會員ニシテ品川翼壯下大同分團員豐淵忠八郎（當二十五年）ハ斯  
ル情勢ヲ目シテ翼壯解消ノ前提ナリト斷シ皇國危意ノ今日國民組織ノ中

核タル翼壯ヲ解消スルガ如キハ明カニ爲政者ノ妄斷ニシテ默視スルニ忍  
ビズトナシ直接行動ニ依リテ地方官長ヲ殺害シ以テ政府當局者ノ反省ヲ  
求ムルト共ニ全翼壯ノ激起ヲ促サント決意シ二月二十四日遂ニ緒方  
務相暗殺未遂事件ヲ惹起セリ當謀ニ於テハ現場ニ於テ之ヲ逮捕スルト共  
ニ背後關係ヲ突キ連類者藤吉二太、笠川新作ヲ極尋目下取調中ナリ  
斯ル國內政情下ニ於テ戰局ハ愈々寇迫シ敵ハ「ルソン島」ニ上陸硫黃島  
ヘノ侵冠トナリ米機ノ跳梁ハ豈受太神官ヲ汚シ明治神宮ヲ燒キ宮城主馬  
登ニ投彈シ盛城機ハ關東東海ニ亂舞ヲ延シ三月十八日ニハ長多クモ  
天皇陛下戰災地御巡幸ノ御事アリ皇國存亡ノ危機眞ニ逼迫セルノ感ヲ抱  
カシムルニ至リ革新陣營ハ議會ノ世論ヲ鳴シ内閣ノ退陣ヲ要望シ非常大  
權ノ發動ヲ渴望シ或ハ官樣内閣ノ出現ヲ冀求スル等其ノ聲次第ニ喧騒ト  
ナレリ仍テ之ヲ表面化トシテ

一聖戰完勝會（有馬俊郎）ニ在リテハ一月十七日役員會ニ於テ

(1) 昭和維新ノ勅命拜授

(2) 絕對責任（切腹）制度確立

ノ提唱ヲ決議

一 翼贊壯年團（建川美次）ニ在リテハ一月十八日總務會ニ於テ

統帥行政生産ノ一体化外四項目

ノ戰爭國家体制確立ニ關スル政府要請事項ヲ決議

三 皇國運動同盟（伊藤力甫）ニ在リテハ一月二十二日

強力政治確立ト國內体制ノ軍式改編ヲ要望セシ聲明書發送

四 南町塾（宅野清征）ニ在リテハ一月二十三日木戸内府、松平官相、藤

田侍從長、通沼侍從武官長宛ニ

航空燃料増産外二項目

ヲ内容トスル進言書發送

五 明倫會聯合會（石崎仲三郎）ニ在リテハ一月二十六日

重要軍需生産従業員ヲ全部軍屬トスルコト外一件

ヲ要望セシ進言書ヲ首、海、陸、内務、軍需、各相宛發送

六 山本英輔、徳富猪一郎外十名ノ同人ニ在リテハ

先手斷行外九項目

ノ決戦施策ヲ要望セシ陳情書ヲ首相宛ニ提出

七 南町塾（宅以清征）ニ在リテハ二月三日木戸内府、松平官相等ニ對シ

食糧増産等三項目

ヲ内容トスル進言書發送

八 皇國運動同盟（伊藤力南）ニ在リテハ二月八日

「時局に激ズ」ト題シ國內体制強化方策トシテ全産業國營化、即時斷

行其ノ他

ヲ要望シ愛國陣營、奮起ヲ促セル激文百部發送

九 尊攘同志會（飯島與志雄）ニ在リテハ二月十一日

維新翼賞學國總誤成國難招來の責任を匡せ！

戦局の禍因を断ち莫は以て宸襟を安じ奉らむ

云々ノ内閣非難ノリーフレット五、〇〇部作成十四日發送十九日發

禁處分

一〇 天關打開期成會（滿井佐吉）ニ在リテハ二月十五日木戸内府ニ對シ

靈劍ヲ奉振シテ米英擊滅ニ邁進セラレヨ然ラズンバ辭職セヨ

トノ建白書郵送

一一 みたみ會（渡邊金藏）ニ在リテハ二月二十一日政府、勇斷ヲ望ム

ト、國內現狀ヲ憂憤セ、建白書ヲ首相宛發送

一、大日本勳皇會（武井定光）ニ在リテハ二月二十三

新黨樹立問題ニ關シ、翼贊會翼壯ヲ解消、叫々翼政ハ自ラ反省シ衆議院  
ヲ解消セヨ

ト、進言書ヲ作成發送準備中

一、先帝奉安御遺骸四郎ハ二月十八日午前十一時基督教排撃ノ進言ヲ爲サ  
ントテ首相官邸ヲ訪問、麴町署ニ似束

一、南町塾（宅野清征）ニ在リテハ二月二十七日

木戸内府、松平官相等ニ對シ

虚テ歐ヲ固メ神國ヲ何處ニ置ル心算カ畏レ多クモ官城ヲ米鬼ノ「ダン  
ス」場ニスル心算カ

ト、進言書郵送

一、兵鶴鳴莊（摺建甫）ニ在リテハ三月十八日

戰鬪的強力内閣の出現を要望す

ト、意見書ヲ作成陸、海、軍首領部其、他ニ郵送

一六 尊攘同志會（飯島與志雄）ニ在リテハ

「維新奉行」要請ノ署名運動ヲ展開要請文並ニ挨拶狀五、〇〇〇部ヲ各方面ニ郵送

一七 大日本言論報國會（徳富猪一郎）ニ在リテハ三月二十六日內大臣宛御親政ニヨル政治ノ實現

ヲ冠望セシテ請願書郵送

一八 南町塾（宅野清征）ニ在リテハ三月二十六日木戸内府、松平官相等ニ對シ

食糧増産

ニ關スル進言書郵送

一九 世界修理固成會（安山寛）ニ在リテハ三月三十日役員會ニ於テ政府ニ對スル

決戰施策

要望ヲ建白書提出方決議

二〇 南町塾（宅野清征）ニ在リテハ四月二日木戸内府、松平官相、蓮沼侍從武官長、鈴木樞府議長ニ對シ

重大時局ニ直面シ重臣ノ政治干渉並ニ國家機密漏洩ニ關スル反省ヲ促

シ内府ニ朝香宮鳩彦王殿下ヲ推薦シ奉リ度シ

ト建白書ヲ郵送スルト共ニ局ヲ朝香宮殿下ニ郵送奉呈

スル等請願建白、進言、要請、頌文或ハ檄文、聲明書、續出スル傾向ヲ生ジタリ

革新陣營ノ機關紙ニ於テモ同様ノ函調ヲ揚ゲルモノ多ク

一世界思想戰研究所（小林五郎）ハ機關紙「國民評論」十二月號ニ於テ

内閣ノ快速調ト題シ政策ノ中核ニ觸レザルコトヲ論難

一國際日本協會（藤森清一郎）ハ機關紙「復興亞細亞」新年號ニ於テ

政府當局者並ニ指導層ノ憤起ト垂範ヲ要望

一大日本同志會（松本德明）ハ機關紙「維新新聞」一月號ニ於テ

「斷行ノ年」ト題シ重要軍需工場ノ疎開分散其他強力政治ニヨル決

戰施策ノ斷行ヲ要望

一皇民實踐協議會（丹羽五郎）ハ機關紙「興民新聞」ニ於テ

「和平論ヲ爆碎ス」ト題シ和平論ヲ痛爆シ直接行動ヲ示唆二月六日發

禁處分

其啓明社（石井實雄）ハ機關紙「啓明」一月二十五日發行分ニ於テ「完全勝利ノ維新体制」ト題シ國家維新體制ノ勅命ヲ仰ゲトナシ直接行動ヲ示唆發察處分

六 關粹同盟（笹川良一）ハ機關紙「關粹同盟」三月號社説ニ於テ

勝ツタメダ皇國護持ノタメニ現與政幹部ハ總退陣セヨト主張

七 大日本勤皇會（田邊宗英）ハ機關紙「報國新聞」二月號ニ於テ齋藤直幹

「噴火山上ノ狂態」ト題シ國內ノ狂態ヲ痛憤厭勢切替ヲ要望

スル等論旨概不激越ニシテ警戒ヲ要スルモノ在リタリ

斯ル情勢下政府ニ在リテハ內閣強化ノタメ二月二回ニ亘リ內閣ノ改造ヲ

斷行次テ三月十六日ニハ特旨ニヨリ首相ノ大本營會議列席ガ發表セラレ

タルモ聊モ空氣ノ好轉トナラスルニ三月三十日大日本政治會ノ發足ニ對

シテハ冷淡以上ノモノヲ有シ不要ノ難シ「バドリオ」的存在ト警戒スル

モノ或ハ之ガ攻勢ニ對スルコトヲ目的トセル革新陣營ノ派閥ヲ超越シ

テハ橫斷的結集ヲ企圖セル雨谷菊夫、片岡駿、豊島慶輔等ヲ中心トスル

萬衆會結成準備ノ動ヲ生ズルニ至レリ



他方戦局ハ愈々急迫シ三月二十五日慶良間列島四月一日沖繩本島へ敵  
上陸トナリ世界ノ視聽ハ本土一隅南西諸島ニ集中セラレ一億國民齊シ  
ク皇國ノ危急ヲ感シ戦争完遂強力以治ノ大號令ヲ待望スルヤ切ナルモ  
アリ四月五日小磯内閣ハ更ニ強力ナル内閣ノ出現ヲ冀ヒ遂ニ總辭職スル  
ニ至レリ

斯テ六日鈴木内閣誕生セリガ之ニ對スル革新陣營ノ意圖ハ個人的ニハ鈴木  
本首相ニ好感ヲ有スルモ多キモ組閣ニ關シテハ從來ノ組閣方式ヲ一歩  
モ出ズ革新性ナシトスルモ岡田(啓介)内閣ノ觀アリトナリ又モ重臣  
並ニ大日本政治會ニ氣兼ねリトナスモ等アリ人事ニ關シテモ陸、海、  
内、文相ハ概シテ好評ナルモ其ハ他ハ期待薄シトナシ兎角ノ批判ヲ爲シ  
居ル狀況ナリガ南西諸島ノ決戦ハ我方特攻隊ニヨリ甚大ナル戰果ニ不拘  
戦局ハ依然膠着ノ状態ニシテ其ノ趨端倪スベカラザモアリ  
政府ノ國民義勇隊結成方針ニ對シテハ重大ナル關心ヲ有シ組織ニ當リ之  
ガ指導的乃至中核的地位ヲ獲得ヲ望ミ且日本國民特攻隊ヲ結成セリ聖戰  
完勝會、特攻後援隊結成ヲナセリ岡田雄、功著アリ又翼壯本部ニ於テ

モ之ニ重大ナル關心ヲ有シ日歐ノ侵出ヲ警戒シ莫壯ヲ以ツテ中核体タラ  
ントスル勦闘アリ他方歐洲ノ戦局ハ愈々急迫シ赤軍ハ遂ニ伯林ニ侵入獨  
逸ノ崩壞間近キヲ感ゼシムルモアリテ國內施策ニ試スル關心ハ愈々重  
且大トナリ來レリ

主ナル團體ノ動向

(一) 大日本翼贊壯年團 (緒方竹虎)

本年初頭建川團長ノ辭任說傳ハルヤ國民運動一元化及ビ後任團長選任ヲ繞リ翼壯解消反對ト專任團長以テ任ヲ要望シテ本部總務及帝都團等ヲ中心ニ各々別個ノ視野ヨリ各組ノ策動行ハレタモ一月十九日緒方翼贊會副總裁ノ團長兼任ガ發令セラレ續イテ同月廿四日本部長ニ館林三喜男理事ニ三上卓、四元義隆等ガ就任シ本部機構ヲ簡素化シ以テ思想ノ統一ト團運動ノ推進勢力ヲ益増シ次イテ中央團役員ノ改任ニ當リテハ中及地方一体化ノ實現ト地方團運動ノ重要性ニ鑑ミ地方團幹部ヲ現職ノ儘中央團總務及理事ニ就任セシムル等構想ヲ新タニシテ團運動ノ進展ニ努メ來リタルガ政府ノ國民義勇隊結成ノ意嚮瞭ニナルヤ之ガ編成ヲ繞リ政府ノ態度ニ深甚ナル關心ヲ寄セツツアリ、其ノ間ニ於ケル中央本部、帝都團並ニ之ヲ繞ル動向左ノ如シ

(1) 中央本部 (緒方竹虎)

(1) 建川團長及橋本本部長ノ退陣並緒方兼任團長發令

情熱ヲ以テ就任セシ建川國長モ就任後生起セル諸種ノ問題ヨリ心  
境漸ク變化シ一月二日小磯總裁ノ招請ニヨリ官邸ニ會見國民運動  
一元化問題ニ關シ互ニ意見ノ交換ヲ重ネタシモ總裁ノ口吻ヨリ政  
府ノ此裏ヲ察知シタルモノ、如ク其ノ席ニ於テ辭意ヲ表明セリ  
其ノ際小磯總裁ハ後任國長ニ緒方翼贊會副總裁ヲ以テ充ツ可キ旨  
申シ向ケタシ模様ナルガ建川國長ノ辭任及緒方兼任國長說一度傳

ヘラル、ヤ本部ニ在リテハ

イ、一月九日 各部長會議

ロ、 本部職員總常會

ハ、一月十日 總務會

ニ、一月十一日 參與會

ホ、一月十三日 本部職員總常會

ヘ、 總務參與懇談會

ト、一月十七日 有志總務會

等ヲ催シ翼壯ノ解消並兼任國長反對ヲ標榜シ事前工作ニ努ムルト  
コトアリタシモ一月十九日遂ニ緒方兼任國長ノ發令ヲ見ルニ至リ

續イテ館林本部部長、三上、四元等新首脳部陣ノ發令ヲ見ルニ及ン  
テ自然消滅セタ

(7) 本部機構ノ改組

緒方園長、館林本部長新首脳部人事發令セラレ、ヤ三上、四元、  
雨谷理事ヲ推進力トシテ從來ノ統務部其ノ他六部一室制ヲ組織、  
庶務審議室、中央道場ノ二部一室一室一室ニ簡素化シ中央本部ニ於ケ  
ル思想統一並ニ團結、強化ニ努ムルトコロアリタリ

(8) 全國都道府縣園長會議

改組後初ノ園長會議ヲ二月二十四日二十五日、兩日大政翼贊會大  
會議室ニ於テ緒方園長以下全國都道府縣園長約五十名出席、上決  
戰下翼壯ニ負荷セラレタル爲命ト園員ノ心構ヘニ就キ討議スルト  
コロアリタルガ席上

イ、翼政、翼贊、翼壯等一元化問題

ロ、專任園長要望ヲ無視セシ兼任園長問題

等翼壯官面ノ主題ニ關シ或恐ナル空氣ヲ孕ミタルモ本部側ニ在リ

テ終始地方縣團長、發言ヲ制肘シ願ハ低調裡ニ終了セリ  
本會議中第一日目三上組織部長、國運營方針說明中午后二時五十  
分頃別記半島青年豐淵忠八郎ノ緒方團長殺害未遂事件發生セリ

#### (4) 總務理事發令

三月一日中央四役員、改任ニ當リ北海道團長岩澤誠外八名ニ中央  
團總務ニ山梨縣團總務中澤孝廣外十三名ヲ審議室理事ニ夫々理事  
ノ儘任命シ團ノ重要企畫、審議決定ト之ガ運動實施ニ於テ責任ヲ  
分擔ニ任ゼシメ以テ中央地方一體化運動ヲ企圖セリ

#### (5) 地區別本部長會議

中央本部、國運營方針傳達並ニ中央地方一體化運動促進、タメ館  
林本部長、三上組織部長等出席シ  
イ、三月二十、二十一日九州四國中國地區（山口市）  
ロ、三月二十、二十五日近畿東海地區（大津市）  
ハ、三月二十八、二十九日關東東北北海道地區（宇都宮市）  
夫々本部長會議ヲ開催スリ

#### (6) 神州護持翼壯挺身隊動員

義ニ政府ノ國民義勇隊創設ノ發表アルヤ翼壯本部ニ在リテハ翼壯  
コソ之ガ中核トナリ推進力タラザル可カラズトナシ之ガ先驅トシ  
テ神州護持翼壯挺身隊動員ヲ決定關東地區各府縣國ニ對シ參加者  
ハ必ラズシモ團員ト限ラズ石若男女ヲ問ハズ積極的ニ參加セシメ  
國民義勇隊的性格ヲ持タシムル事ヲ前提トシテ各府縣一千名以上  
ヲ動員四月十日ヨリ二十五日迄十六日間ニ涉リ神奈川、茨城、千  
葉三縣下ニ集合軍ニ協力山嶺陣地強化ニ挺身セリ

(7) 國民義勇隊問題

天下りの官製團體化ヲ排除シ飽迄翼壯ヲ中核トスル下カラモリ上  
ル國民組織ヲ熱望シ四月十九日本部ニ  
イ、四月十一日下谷區谷中一乘寺ニ於テ總務、理事會ヲ開催緒方  
團長、館林本部長以下本部員、總務、理事等二十二名出席  
國民義勇隊ノ結成ニ關シ各種團體ト連絡眞ノ隊結成ニ着手ス  
等四件ヲ決議セリ

ロ、四月十九日本部ニ館林本部長、三上組織部長、中澤同次長、

辻庶務部長、四元審議室主任等會合

「國民義勇隊設置並ニ運営ニ關スル要望事項」  
ヲ作成、内閣、内務、陸軍省等ヲ訪問之ガ目的達成方申合ヒタ  
リ

ハ、四月三十日本部ニ於テ「關東地區縣團長會議」ヲ開催、緒方  
團長以下本部員並ニ地區代表十一名出席

國民義勇隊設置問題ニ關シ協議

緒方團長ヨリ翼壯團ハ擧ゲテ國民義勇隊ノ急速ナル結成ニ邁進  
スル旨ノ聲明ヲ發表無事散會セリ

### 乙 帝都翼實壯年團（荻洲立兵）

十二月二十六日實踐部長ヲ免セラレタル荻洲重之ハ建川團長ノ辭任說  
ヲ聞知スルヤ管一派ノ同志（坂木正義、藤田竹治、大川運平、榊原  
孝等）ノ策應建川、橋本等本部首腦部ノ失敗ヲ指摘シ其ノ退陣ニ至  
ル無誠意ヲ論難スルト共ニ國民運動一元化ニ對スル翼政ノ態度ヲ誹  
謗攻撃シ更ニ政府ノ天下リ人事ヲ排撃シテ翼壯人事ノ自主性ト政治  
性ヲ強調全國各府縣團ニ飛檄シテ中央團離脱ノ氣運醸成ニ努メタル



モ地方國ニ在リテハ非常時局の妄動ニ過ギズトシテ動搖スル模様ナク失敗ニ歸セルモノナルガ其ノ間荻洲帝國長ハ之等管太郎、荻洲重之等一連ノ動向ト帝國國ノ關係ヲ區別スルノ要アリトシ彼等ハ國外ニ在リテ運動スルモノニシテ帝國ノ與リ知ル所ニアラズトナシ閣外、閣内ニ區別シ閣内ニ在ルモノニ對シテハ輕舉妄動ヲ嚴戒セ

(1) 帝國國（所謂國內）ノ動向

イ、一月六日九ノ内會館ニ緊急總務顧問會議ヲ開催建川國長辭任

ヲ稱ル帝國國ノ態度決定ニ付懇談セリ

ロ、七日味、美ビルニ於テ區市團長會議ヲ開催荻洲國長ノ留任ヲ

支持シ舊政黨一元化ニハ絕對排撃スル旨ノ決議ヲナセリ

ハ、八日九ノ内會館ニ於テ關東地區團長會議ヲ開催

(イ) 全國地區代表者ノ緊急連絡會議ノ開催

(ロ) 後任團長ハ翼壯運動ニ挺身シ得ル專任團長タルコト

(ハ) 既成政黨的國民運動一元化絕對反對

ヲ決議セリ

ニ、九日味ノ素ビルニ於テ各區市國報導部長會議ヲ開催中央口

勸搖ニ誘導セラレ、コトナク既定方針ニ基テ邁進方申合セタリ

ホ、十日東洋軒ニ於テ參與會ヲ開催、龍延秋洲團長ヲ中心ニ學國

一致方申合セタリ

ヘ、十二日翼贊會大會議室ニ於テ全國地區代表者連絡會議ヲ開催

專任團長要望ヲ決議ヲナセリ

(2) 管太郎、秋洲重之等 (所謂國外)ノ動向

管太郎、秋洲重之等、一派ハ建川、橋本辭任說ヲ聞知スルヤ神田

ノ所謂翼壯寮ニ屢々會同

イ、一月四日中央本部總務渡邊埼玉縣團長及名取山梨縣團長名ヲ

以テ

一、建川、橋本辭任本部潰滅ス後任及一元化問題ヲ繞リ翼壯危機

ニ瀕ス帝都國氣附至急連絡乞フ

旨ヲ打電シ全國國ノ激起ヲ要望セリ

ロ、一月六日山形縣團本部長溝井慈一外八名連名儀ヲ以テ

「建川團長辭任ヲ就山情勢」

ト題スル所謂怪文書ヲ作成本部首腦部ノ失敗ヲ論難セリ

ハ、一月二十日東北地區其他關係府縣團ニ對シ「十八日中國地區  
連絡會議ノ結果各縣一齊ニ離脱ヲ決定ス」

ノ無名電報ヲ打電

スル等地方團ニ對シ各組ノ手段ヲ弄シテ反中央本部の空氣ヲ助  
長シ次イデ一月三十日ニ至リテハ遂ニ中央本部離脱ノ指令ヲ發  
スルニ至レリ

仍テ當課ニ在リテハ是等分子ノ活動ガ地方翼壯團ヲ擾亂シ延イ  
テハ國民總力ノ結集ヲ阻害スル虞アルヲ以テ斯クノ如キ不純ナ  
ル策動ヲ防遏スルタメ一月二十八日ヨリ二月十四日ノ間其ノ主  
謀者ト目サル

元實踐部長 荻洲 里之 幹事 坂本正義

囑 託 榊原 孝

三名ヲ檢舉嚴重加諭釋以シ以テ事態ノ混亂ヲ未然ニ防除セリ

(二) 尊讓同志會 (飯島與志雄)

客年十月ヨリ奉勅尊讓ノ宣誓者名運動ヲ全國的ニ展開シ速カナル御  
維新成就即聖戰完遂ヲ翹望シ來タレハ本團體ハ小磯內閣當時ハ勿論  
現內閣ニ對シテモ苛烈ナル戰局下全ク國內維新スラ完遂シ得ズ斯ケテ  
ハ戰局ノ歸趨ト米英壓迫ノ如何ニ依リテハバドリオ的存在ニ支配サル  
、恐レ濃厚ナリト極度ノ警戒ヲナス一方政府諸施策ニ對シテモ無氣  
力、不統一ナリトテ誹謗的言辭ヲ弄シ其ノ動向極メテ注意ヲ要スル  
モ、ガアルガ一月以降現在ニ至ル運動狀況次ノ通り  
ム「維新奉行」要請署名運動

客年十月奉勅尊讓宣誓署名運動ヲ全國的ニ展開シ之レガ署名調印  
ヲ蒐集シアリタルガ更ニ第二期運動トシテ本年三月十四日「維新  
奉行」ノ名ノ下ニ

要 請

「政府ハ速ニ難局招來ノ責任ヲ匡シ國體ニ基ク必勝ノ總力戰体制  
ヲ確立シ舉國臣民ノ奉勅尊讓ノ忠誠心ヲ物心兩面ニ遺憾ナク發  
揮セシメ以テ皇政維新ヲ奉行サレンコトヲ要請ス」

ナニ要請文並ニ挨拶狀ヲ約五千部印刷各方面ニ發送シ維新奉行ノ  
署名ヲ求メフツリタル處約一萬名ヲ獲得シ更ニ第一期運動タル  
奉勅宜誓署名調印モ遂次本館ニ到着約二萬八千餘名ニ達シタルヲ  
以テ四月十三日午後一時三十分ヨリ本部事務所ニ世話人タル

飯島 與志雄 中村 武

谷川 仁 西 三千春

摺建 富士夫 茂 呂 宣 八

毛 呂 清 輝 黒 江 直 光

等參集兩署名運動ヲ一應收録メ宣誓式ヲ舉行ノ上該署名調印帖ヲ  
靖國神社前ニ奉誓スルト共ニ當局ニ提出シ奉勅尊攘ト維新体制確  
立ヲ要請スルコトヲ協議決定之レガ具体化ヲ飯島與志雄、谷川仁  
中村武ニ一任シ罷會セリ

スリーフレットノ發行

尙前門運動ノ展開途上戰局ノ進展急速ニ我ニ不利ナルニ焦慮スル  
ト共ニ小磯内閣ノ諸施策連々トシテ進展モザルニ憤激シ爲政者ノ

責任ヲ匡サザルベカラズトシ本年二月十一日新元ノ佳節トシ  
「維新眞實學國總設廠困難招來ノ責任を匡せし」職局の禍國を際ち  
冀くは以て宸襟を安じ奉らむ」云々ト記載セル小張内閣評議アリ  
トフレツト（三月十九日發給處分）約五千部ヲ作成三月十四日關  
係各方面ニ向ケ發送シ政府當局並ニ上層部ノ反省ヲ促シ其ノ實  
ヲ追及スル等其ノ運動漸次實踐的ニ傾キツツアリタル折柄  
並痔疾蓄膿症ノ治療ヲ受クベク（客年十二月十九日）荒川  
里町七ノ四四七永野醫院ニ入院中ナリシ世話人中村武（四月十  
四日）空襲災害ニテ同醫院全焼ニ退院ニヨリ本運動モ遂次熾烈化  
スル傾向ニアリ嚴重視察中ナリ

(三) 大日本一新會（吉田益三）

右團體ニ在リテハ舊臘來影山、河上等各幹部ノ應召ニ引續キ屢次ニ  
亘ル敵機ノ京濱、阪神等主要都市空襲ニ依ル總裁以下幹部ノ罹災並  
ニ緊迫セル現下ノ國內情勢ニ鑑ミ一部本部機構ノ整備ヲ實施シ  
統制強化ヲ企圖スルト共ニ義ニ（本年二月六日）決定ヲ見タル本年

度運動目標ニ基キ聖戰阻礙的存在タル指導者層ノ覺醒ニ主目標ヲ置キ活動ヲ展開中ナルガ本年一月以後ニ於ケル主タル動靜左ノ如シ  
人總務會ノ開催

二月六日午後二時ヨリ六時ノ間西部連絡所ニ於テ吉田總裁以下八名出席

(1) 特別隊並統制委員會ノ廢止ニ關スル件

(2) 全國大會、各種演說會等ノ中止及ビ之ニ伴フ地區懇談會等ノ活用ニ依ル新銳同志ノ獲得

(3) 指導者層ノ覺醒ト昭和維新ノ斷行

(4) 總裁ノ政治運動ト青年層ノ塾運動ノ調和統一ニヨル一體的ナル革新運動ノ展開

(5) 新黨結成ニ因ル政治運動ノ破碎等ニ就キ協議セリ

2. 指令其他印刷物ノ發行

(1) 二月二十六日「決戰措置ニ關スル私見」ト題スル印刷物約三〇

○部ヲ作成官、財其他關係同ニ對シ郵送セリ

(2) 二月二十七日全國各地分官ニ對シ去ル二月六日總務會ニ於テ決定セル本年度運動方針ニ關シ指令書ヲ發送セリ

(3) 六月二十五日「アメリカ處理案策定ヲ提唱ス」ト題スル印刷物五〇〇部ヲ作成外務省ヲ始メ官界財界其他學界指導者層等ニ對シ郵送セリ

(4) 三月三日經濟界ノ逼迫ニ伴フ闇行爲ノ横行ニ對スル當局ノ善處ヲ要望シ「深憂ニ堪ヘヌ闇行爲」ト題スル印刷物三十部ヲ作成首相以下各大臣其他關係同ニ對シ郵送セリ

(5) 四月十一日敵機頻襲ノ現状ニ鑑ミ幹部ノ中央集中ヲ以テシテハ萬全ヲ期シ難シトナシ總務其他幹部ノ地方移住ヲ企圖シ各幹部宛右趣旨ノ通達書ヲ郵送セリ

(四) 聖戰完勝會 (有馬俊郎)

本會ハ尊皇攘夷ニ依リ皇國維新体制ノ確立ヲ措イテ聖戰完勝ノ途ヲ示ト呼號、切腹責任政治ノ確立ト現指導者階級ノ總退陣ヲ要望シ



仁 官 武 夫

有 馬 俊 郎

等ヲ中心ニ元々ことむすび、其者其他純正日本主義陣營ヲ念進分子ト、來往アリテ其ノ動靜注意、處一月十七日本本部ニ開催セル同人初顔合會ニ於テ

1. 昭和維新ノ勅命拜授

2. 絶對責任(切腹)制ノ確立

ノ運動方針ヲ決定、現下、國難打開ノ途ハ一億特攻隊精神ヲ体现シテ君前戦死ノ体制ヲ確立スル以外ニナシトシ其ノ間抬頭セル「國民運動一元化問題」「國民義勇隊組織」ニ對シテハ官制運動ニテハ徒ラニ形式ニ墮スル虞アリ依ツテ草莽ノ間ヨリ自發的ニ燃へ上ル特攻魂ヲ結集シテ眞ニ盛上ル國民組織タラシムベク之ガ勢國氣ヲ培養スル要アリト稱シ

本部同人

仁 官 武 夫

有 馬 俊 郎

松 浦 三 郎

金 子 拙 郎

杉 原 次

等夫々各地方ニ出張シテ地方同人ト連絡國民特攻隊ナルモノヲ結成  
ニ奔走シ一方本會ニ實効力ヲ有スル仁官武夫ハ片岡駿、雨谷菊夫等  
ト相謀リ維新陣營ノ大同團結ヲ策スルト共ニ各地ニ結成セラレタル  
國民特攻隊ヲ更ニ總結集シテ全國的運動展開ヲ策四月二十五日中  
野日本閣ニ於テ全日本國民特攻隊結成大會ヲ開催スル等活潑ナル運  
動ヲ展開セシムガ其ノ主目的ハ地方精銳分子ノ獲得ト大同團結ニヨル  
維新陣營ノ連繫強化ニ在リヲ以ツテ引續キ注意視察中ナリ  
尙本期間ニ於ケル主要運動ハ  
ハ一月十七日日本部事務所ニ同人初顔合會ヲ開催シ當面ノ運動方針ト  
シテ

昭和維新ノ勅命拜授

絕對責任（切腹）制ノ確立

等ヲ協議決定セリ

三月三日主幹有馬俊郎ハ九州ニ出張シ各縣下ノ同志ヲ瀝訪國民特  
攻隊ノ結成ニ奔走同十一日、二十三日、二十五日、三回ニ亘リ準  
備會ヲ開催シ之ガ結成ヲ

福岡縣福岡市土手町

赤心塾主幹 三木三郎

ニ依頼シテ同月末歸京セリ

1. 三月八日本部ヲ出發セル同人松浦藤三郎ハ同十五日山口縣ニ至リ

二月末ヨリ歸郷中ナリシ本部同人杉憲次ト共ニ地方同人安田與八

神徳達也等ト連絡國民特以以結成氣運ノ醸成ニ奔走同十八日之ガ

準備會ヲ開催シ同二十五日歸京セリ

2. 三月二十日水戸市ニ於テ仁田武夫、片岡駿世話人トナリ「全關東

國民特攻隊」ヲ結成セリ

3. 三月二十五日本部同人金子拙郎ハ富山市ニ於ケル「北信五縣維新

挺身隊」結成式ニ參加之ヲ激勵ス

4. 四月九日下谷區一乘寺ニ於テ仁田武夫ハ片岡駿、雨谷菊夫等ト共

ニ「維新的國民運動中核會議會」ヲ開催セリ

5. 四月十五日全日本國民特攻隊結成式案内狀約三、五〇〇枚ヲ作成

全國關係方面ニ發送セルガ之ガ内容研討スルニ別個ノ思想結社ト

シテノ形態ヲ有スルヲ以テ當課ニ在リテハ責任者ヲ招致シテ請社  
申請ノ手續ヲ爲サシメタリ

四月二十三日同二十四日、兩日ニ亘リ中野日本閣及原宿東亞報徳  
會堂ニ於テ「全日本國民特攻隊」結成準備會ヲ開催セリ

四月二十五日午後二時ヨリ同五時、間中野日本閣、（期）發起人  
下約二三〇名參集シテ「全日本國民特攻隊」結成式ヲ舉行セリ

四月二十六日、二十八日、二十九日、三日間ニ亘リ安田與八外二  
十一名ノ各代表ハ夫々分擔シテ（首）補、内相、農商相、幹長ヲ訪問「

全日本國民特攻隊」結成主旨ヲ述べ大眼目、宣言、信條等ヲ携行  
手交セリ

(四) 國粹同盟 (笹川良一)

比島上陸以來ノ憂愴苛烈ナル戰局、小林翼政會總裁ノ入閣並ニ翼政  
翼贊、翼壯等ノ解体ニ依ル國民運動ノ一元化問題ノ提唱等所謂政局  
ノ推移ニ伴ヒ本會ハ常ニ強力斬新ナル革新政治ノ確立ヲ要望シツツ  
ニ本土空襲ノ頻發等ニ鑑ミ舊臘中ノ如キ演說、講演會等ノ所謂大衆

運動ハ必然的ニ種々ナル制約ヲ受クルノ已ムナキニ至リ空襲罹災者ノ救護ト稱シテ三月罹災者ニ蠶繭酒粕等ヲ寄贈スルト共ニ「生産突撃隊本部」ナルモノヲ設ケ罹災者ノ奮起ヲ要望セル檄文約一、〇〇〇枚作成配布セシ外見ルベキ凶行行動ナク表面沈靜ノ觀ヲ呈セルモ小磯内閣ニ對シテハ頭初、是々非々主義ヨリ漸次反政府的ニ移行シ總裁笹川良一ノ如キハ當廳視察員ニ對シ「小磯内閣ハ弱体内閣ニシテ決戰政治ヲ擔當スル資格ガナイ小磯内閣ガ何時迄モ存續スルニ於テハ今ニ無名ノ士ニ依ツテ殺ラレルデアラウ」ト放言シ殊ニ翼政幹部ニ對シテハ極度ノ憤懣ヲ内政新聞紙「凶暴運動」三月一日付第二十七號社説ニ於テ

「勝つ爲だ皇國護持の爲に現政會幹部總退陣せよ」ト題シ翼政幹部ヲ遊女的存在ト痛罵セリ

次イテ鈴木内閣ノ成立ヲ見ルヤ始メヨリ老齡内閣ナリト評シテ是々非々主義ヲ執リ依然沈黙ヲ保持シ居ルモ本會ハ常ニ國民ノ支持狀況ヲ打算シテ態度ヲ豹變シ國民ニ迎合的ナ矯激言動ヲ弄スル傾向ヲ有

スルヲ以テ其ノ前衛隊ナル一團梓挺身隊」ノ思得ニ及ボス影響極メ  
テ注意ヲ要スルモノアリ

(六) 天關打開期成會 (滿井佐吉)

本會ハ主幹滿井佐吉ノ專斷ニ依リ運動ヲ展開シ居ルガ其ノ團體活動  
ハ近來頓ニ低調トナリ主幹滿井ノ神憑的靈劍奉振ニ終始シ居リ本  
間ニ於ケル主ナルモノハ

一月六日丸ノ内二丁目三菱重工業株式會社社長郷古潔ノ招聘ニヨリ  
名古屋地區所在工場ニ對スル敵機來襲防止ノ刻以テナシタルヲ始メ  
シ二月十一日ニハ奈良縣下石上神宮拜殿ニ於テ戰勝祈願ノ劍祓ヲナ  
シ當日ハラチオヲ以テ全國中繼放送トナリタルガ歸京後二月十五日  
木戸内府ニ對シ

「靈劍ヲ奉振シテ米英擊滅ニ邁進セヨ然ラザレバ辭職セヨ」  
シ内容トセル建白書ヲ郵送セリ

尙天關打開議員聯盟ニ就イテハ三月五日「救國神劍黨」ト改稱シ各  
支部及同志聯盟議員並ニ衆議院議員有志ヲ贊同ヨ求ムル案内狀ヲ郵

送セルガ議員ユシテ贊意、回答ヲナシタルモノハ埼玉縣選出ノ出井兵吉一名ナリシヲ以テ新黨結成ニ付議員ノ動靜ヲ靜觀シツツアリ

(七) 大 東 塾 (影山正治)

昨年十一月十五日影山塾長ノ北支甲第一四〇九部隊入隊後ニ於テハ塾監長谷川幸男全塾員ヲ統率シ三浦義一、影山庄平、藤田徳太郎、淺野晃等ノ援助ノ下塾生ノ指導練成ニ努メ更ニ又ひむがし歌會ノ開催或ハ聖戰貫徹維新促進、忠公葬神式統一祈願祭及大東塾創立六週年紀念祭ノ執行等所謂忠公葬問題ヲ主眼トシテノ運動ヲ展開シ來レリ

而シテ三月七日塾監長谷川幸男ハ東部第九十部隊ニ應召スルニ至リタルモ其ノ後ハ二月現地部隊ヨリ歸還セル同人牧野晴雄ヲ塾監代理トシ同人藤原仁、鬼山保ヲ顧問トシ影山庄平、三浦義一等ノ指導下ニ塾ヲ經營シツツアリ

加之義ニ故古賀元帥海軍葬式妨害事件ニヨリ懲役七月ニ處セラレ

東京拘置所ニ服役中ナリシ同人野村辰夫ハ病氣ノ爲執行停止處分ニ付セラレ二月二十二日出所シ東京廣尾病院ニ於テ加療後歸塾スルニ至リ更ニ昨年五月國家總動員法違反事件（以用忌避）ニヨリ懲役六月ニ處セラレ東京拘置所ニ服役中ノ塾生川野定澄ハ四月十八日滿期出所スルニ及ビ塾内ノ學團氣モ相當活況ヲ呈スルニ至リ警戒ヲ要スル狀況万ニ在ルガ其動向ノ概要左記ノ通り

人聖戰貫徹維新促進、忠靈公葬、神式統一祈願祭執行

二月十一日紀元節ノ佳節ヲ朴シ文化國體新國學協會ト共同主催ニテ聖戰貫徹維新促進、忠靈公葬、神式統一祈願祭ヲ執行

塾 監 長谷川 幸 男

顧問 三 浦 義 一 大 賀 知 周

其ノ他塾員並新國學協會々員等計五十三名參加同人藤原仁指揮ノ下

午前十一時四十五分塾出發二列縱隊ヲ以テ途步行進シ午后二時宮城前ニ到着皇居遙拜、榎原神宮並畝傍御陵遙拜、國家奉唱ヲ行ヒ續イテ土下座シ



天壽庵講堂  
惟神大道宣揚、御勅奉讀

祭文、奏上  
大禮司

等、後楠公銅像前ニ於テ、學監、顧問等ヨリ夫々挨拶アリ、午后四時三十分無事散會セリ

2、塾創立六週年紀念祭執行

四月三日午後二時三十分ヨリ塾内神前ニ於テ

牧野晴雄  
野村辰夫  
原仁  
鬼山保  
三浦義一  
白井為雄

其、他關係者等計五十一名参加ノ下

塾創立六週年紀念祭ヲ執行、原仁ノ齋主ニヨリ式典、終了後記念祝宴ヲ催シ、午後六時無事散會セリ

3、塾幹部ノ懇召並召集解除神前報告祭執行

三月四日塾内神前ニ於テ塾監長谷川幸男及塾長實弟影山辰夫ノ  
照召並同人牧野晴雄ノ召集解除神前報告祭ヲ執行

長谷川幸男 影山辰夫 牧野晴雄

影山庄平 三浦義一 淺野晃

其ノ他塾員等計四十名參集ノ下同人藤原仁ノ齊主ニヨリ式典ヲ進  
行

長谷川幸男

三月七日東部第九十部隊入隊

野村辰夫

二月二十八日吳海兵團入隊

牧野晴雄

二月十一日滿洲第四一四一部隊召集解除

ノ神前報告祭ヲ行ヒ午后五時三十分無事散會セリ

4. 新國學協會歌會開催狀況

一月二十一日上野公園内貸席韻松亭ニ於テひむがし歌會ヲ開催  
員其他計四十名出席

長谷川 幸男  
藤田 徳太郎  
等ヨリ夫々歌道ノ心構ヘニ臥テ、講話ヲ聴取散會セリ

(八) 鶴 鳴 莊 (摺建 甫)

其ノ主張タル擊ソ反共運動ハ我對ソ外交方針ニ依リ制肘ヲ草ケ真ラ其ノ鋒先ヲ國內維新ニ集中小内閣ノ施政ニ關シテハ批判的ヨリ漸次反對的態度ニ移行シ本年ニ入ルヤ戰局ノ轉展ニ伴ヒ小磯内閣ニテハ現時局ヲ乘切ルコト期シテ益メスト、推斷ヲ下シ現下青烈ナル戰局ニ即應シ將來ノ大決戰ニ對シ得ル戰鬪的ニシテ強力ナル内閣ノ出現ハ刻下ノ喫緊ノ急務ナリトシ三月十八日代表摺建甫ノ名ノ下ニ

戰鬪的強力内閣の實現を要望す

ト題スル「意見書」十八部ヲ作成陸海軍首脳部其他關係向ニ郵送配布シ重臣ノ策動ヲ排撃シ現役軍人ヲ主班トスル内閣ノ出現ヲ要望シ來タレリ新クテ四月七日内閣ノ更迭ヲ見ルヤ鈴木内閣ノ顔振レハ舊態依然トシテ何等革新ノ見ルベキモノナシト斷シ施政ニ關シテハ監

祝的感度ヲ持シ居ルモ同人中増進富士夫、宿垣弘太郎、山口政光等  
ハ引續キ元勳皇まことむすび關係者中村武、元アジヤ青年社關係者  
飯島與志雄、七、五事件關係者谷川仁、茂呂直八等尖銳青年分子ト  
共ニ尊振同志會ノ世話人或ハ會員トシテ活躍シ居リ其ノ舉措動向ニ  
就テハ嚴重警戒ノ要アル處ナリ

(九) 神風特攻後續隊 (常岡龍雄)

曩ニ公事(思想)結社(世界皇化會)許可申請中、常岡龍雄ハ緊迫  
セル現戦局ニ鑑ミ皇國眼前ノ難局ヲ救フモ、ハニ億特攻隊當リ、他  
ナントシ之ガ魁トシテ「神風特攻後續隊」ヲ結成シ第一線陸海神風  
特攻隊ニ無限ニ後續セント同志相謀リ常岡自ラ總司令トナリ二月十  
一日紀元ノ佳節ヲトシ宮城前ニ於テ結成式ヲ舉行シ爾來總本部ヲ板  
橋區下石神井二ノ一三〇ニ置キ隊員百萬結集ヲ目標ニ當面拾萬ノ  
隊員獲得ヲ目指シテ世界皇化會、大義會關係其他知己ヲ頼リ銳意隊  
員ノ獲得ニ努メツツアルガ入隊申込ハ概ネ十六、七才乃至二十才位

男女青年學生工員等ニシテ此ニ一萬餘ヲ結集シアリ

且一月二百名内外ノ入隊申込アリテ東京ヲ始メ愛知、廣島ハ近々ノ裡ニ支隊結成ノ運ビトナル模様ナリ

尙隊員ノ殉國ノ至情ヲ遺憾ナク發揮セシメ隊ノ目的ヲ完遂セン爲メ

精神的物質的支援ヲナスベク今般同隊顧問菊池武夫中將中心トナリ

松井石根ヲ顧問トシ其他同志ノ贊同ヲ得「神風特攻後續隊援護會」

ヲ創設セリ。

三 事件及公判關係

(一) 事件關係

1. 緒方國務相殺害未遂事件

本籍 朝鮮忠清南道瑞山郡瑞山邑潛紅里五〇三

農業 戶主 男 長男

住所 品川區下大崎二丁目二十六番地

藤吉二太郎方 無職 李瑞國コト

淵 忠八郎

當 二十五年

右者元大日本赤誠會員ニシテ現ニ帝都翼壯區圖下大崎分團員ナリガ  
二月二十四日午後一時ヨリ大興翼贊會大會議室ニ於テ開催中ナル大  
日本翼贊壯年團中央本部主催ニ國都道府縣團長會議議場ニ傍聽者ヲ  
裝ヒテ潛入午後二時五十分頃ニ上組織部長、副運籌方針説明當時座  
長席ニ在リタリ

國務大臣兼情報局長 齋藤

大日本翼實壯年團長 緒方 竹虎

ニ接近緒方團長宛、「爲政者ニ捧グ」ト題セル卷書ニ墨書シタル檄文ヲ手交スルヤ、右手ニ握持セル刃渡約五寸五分、短刀ヲ擬シ殺害セントシタルモ團長ガ身ヲ跳ヘンタタメ目的ヲ果サズ當時警戒中、當課員現場ニ於テ之ヲ檢挙取調ブルニ本名ハ平素其ノ師事セル藤吉二太郎、指導ヲ受ケ翼壯運動ニ關シ相當關心ヲ有シアリタル處新聞紙等ニヨリ這般緒方翼實會副總裁、團長兼任ニヨル翼壯中央本部、改組ハ翼壯解消ノ前提ナルモ、如ク思惟シ皇國危急ノ現狀ニ於テ國民組織ノ中核タル翼壯ヲ解消又ハ弱体化セントスル政府ノ措置ニ對シ其ノ軟弱ナル態度ヲ痛憤シ政府當局者ノ反省ト翼壯團員ノ蹶起ヲ促スタメ國務大臣タル緒方團長ヲ殺害セント決意スルニ至リタルモノナリ

尙本事件ニ背後關係アリト被認

本籍 靜岡縣若松市大字藤ノ木千九百二十四番地戸主

住所 東京都品川區下芝崎二丁目二十六番地

大日本翼實壯年團中央本部員

藤吉 二太郎  
當四十二年

本籍 千葉縣東葛飾郡鎌ヶ谷中坪三百八十一番地 戶主仲藏 長男

住所 千葉縣東葛飾郡柏町十番地 木戶小平方

無職 果仙太郎

笠川新 作

當二十八年

ヲ檢舉目下取調中ナリ

不穩計畫容疑者檢舉ノ件

本籍 愛知縣幡豆郡寺津町且海十九番地

住所 東京都牛込區市ヶ谷區町十九番地

皇寶社代表 岩 博之

當五十二年

右者同志數十名獲得特攻隊編成云々、不穩通信文ヲ發送セリト裏面探知昭和二十年三月十七日之ヲ檢舉神樂坂署ニ留置取調アルニ被疑



者ハ戦局ノ非勢ハ歸スル所作或指導者上層爲政者ノ優柔不斷ト責任感ノ稀薄並ニ革新陣營ノ墮落ニ在リト爲シ先ヅ政府要路者、重臣財閥巨頭ニ對シ建白書、意見書ヲ郵送、然ル後同志多數ガ一人ノ連續シテ二重橋前ニ於テ割腹自殺シ指導者ノ反省ヲ促スト共ニ之ガ身代リトナリ以テ一億國民ノ先頭ニ立チテ國內革新ノ特攻隊タラント決意シ三月初旬ヨリ十日、同幅岡ニ西下

皇民塾長、福壽俊雄（三十三年）

會社員、實井忠義（三十七年）

ヲ訪問國內ノ現状ヲ憂憤シ前記計畫ヲ披瀝兩人ノ讀成ヲ得ルト共ニ同志獲得ヲ委囑四月中旬決行ノ豫定ニテ同志三十名（少クトモ十數名）獲得ヲ目指シ活タルモノニシテ直接行動ノ容疑稀薄トナリタルヲ以テ四月二十日一應身柄ヲ釋放セルモノ本名ノ動靜ニ就テハ嚴重注意中ナリ

(二) 公判關係

1. 元維新公論社芥川治郎ニ係ル戰時刑事特別法違反事件

昭和十九年三月十五日東條首相殺人陰謀、拓大生小野寬等ヲ煽動セ  
ル廉ニ依リ戰時刑事特別法違反トシテ起訴セラレタル

元維新公論社責任者 芥川治郎

ハ豫テ豫審終結決定ヲ見公判開始、運トナリ居リタル處本年三月十  
六日東京刑事地方裁判所梶山本七裁判長係ニテ事實審理、證據品調  
終了シ四月七日、公判ニ於テ山澤檢事ヨリ懲役二年、求刑アリ續テ  
官内辯護人ヨリ國政變亂並ニ私人煽動、實質的根據ナシトテ無罪論  
ノ主張アリ四月九日、公判ニ於テ梶山裁判長ヨリ國政變亂並ニ殺人  
煽動ノ罪トシテ禁錮一年（不次通算三百三十日）、判決言渡シアリ  
タルガ本名ハ本判決ヲ不服トシテ四月十三日大審院ニ上告目下繫屬  
中ナリ

2. 元皇道義實青年聯盟委員長毛呂清隆ニ係ル不穩文書事件公判

一 毛呂清隆ニ係ル不穩文書臨時取締法違反被疑事件ハ昭和二十年一月

二十三日東京刑事地方裁判所ニ於テ第一回公判開廷、檢事ヨリ懲役一ケ年ヲ求刑アリ

同一月三十一日前回同様第二回公判開廷判事ヨリ禁錮六ケ月二ケ年執行猶豫ヲ言渡アリ

其ノ後檢事被告上告ナク判決確定セリ

3. 元皇道義實青年聯盟員矢吹省吾ニ係ル言論並ニ強要未遂事犯公判

矢吹省吾ニ係ル言論、出版、集會、結社等臨時取締法違反並ニ強要

未遂被疑事件ハ昭和二十年一月二十九日東京刑事地方裁判所第二號

法廷ニ於テ岸裁判長係ニテ開廷檢事ヨリ懲役一ケ年ヲ求刑アリ

同二月七日前同様第二回公判開廷裁判長ヨリ懲役六ケ月二ケ年執行

行猶豫ヲ判決アリ

檢事被告上告ナク判決確定セリ

4. 元東方同志會振東塾學盟永田正義ニ係ル言論事犯上告審

永田正義ハ該ニ東京區裁判所ニ於テ言論出版集會結社等臨時取締法

違反ニ依リ懲役六ケ月（未決通算三十日）ヲ判決ヲ受ケ之ニ不服上

告中ナリシガ本年二月三日東京控訴院第二號法廷ニ於テ花輪裁判長

院  
控  
訴

係リ吉井俊事立會、上第一回上告審開廷セラレ落合辯護人、上告趣  
 意ノ陳述ニ次イデ立會審事ヨリ原審ノ實體ニ就テハ違法性ナキモ其  
 手續上（指定辯護人ノ出廷ナク開廷）ニ於テ遺憾ノ點アルヲ以テ  
 原審放棄ヲ至當ト認ムル旨ノ論述アリテ目下上告審繫屬中ナリ  
 勤皇まことむすび關係者及之ヲ指導下學生、不穩計畫事件

日大生 廣

久

拓大生 小

寬

勤皇まことむすび關係者

薄井 巳亥

同

西山 直

ニ係ル殺人嫌疑並ニ銃砲火薬取締法違反被疑事件ハ昭和二十年二  
 月二十三日東京刑事地方裁判所第四號法廷ニ於テ第一回  
 二月二十七日 第二回

三月二日第三回公判開廷係似事ヨリ西山、薄井ニ對シ夫々懲役二ケ  
 年、小野ニ對シ夫々懲役一ケ年ノ求刑アリ  
 三月九日第四回公判ニ於テ泉山裁判長ヨリ

ノ判決言渡アリ

西山ハ四月十三日不服上告ノ其ノ他ハ判決確定セリ

瀧	久	同	同
小野	寛	感	一ケ年但シ三ケ年間執行猶豫
海井	已	亥	同 但シ三ケ年間執行猶豫
西山	直	感	一ケ年(未決通算三五〇日)